

Ⅳ 果 樹

1 果樹病害虫

果樹病害虫重点防除指導方針

本県の主要樹種としてウメ・ナシ・カキがあり、その他にブドウやイチジクが比較的多く栽培されている。

果樹では病害虫の発生動向に注意し、病害虫の生態や薬剤の性質を踏まえた防除を指導するとともに、栽培環境の整備や栽培上の工夫・改善によって安全で効率的な防除方法の普及をはかる。さらに、農薬の適正使用を徹底し、果物の安全性・農業者の健康保持・環境保全に努める。

1 耕種的防除の推進

- (1) 病害虫抵抗性品種・台木を利用する。
- (2) 新規に果樹品目を導入する場合は、品目の中で早生種とされる品種を優先し、病害虫の罹病・加害リスクを下げる。
- (3) 有機物の投入や土壌の深耕など土づくりを行い、樹体生育の健全化により、病害虫への抵抗性を高める。
- (4) 果樹園およびその周辺において被害部位は焼却や地中埋設により迅速に処分し、病害虫の発生源や越冬場所の減少を通して、栽培環境の改善をはかる。

2 主要病害虫の防除技術

- (1) 薬剤による防除は、予防散布および病害虫の発生初期散布を基本とする。
- (2) 防除効果を高めるため、組織による効率的な防除を推進する。

(1) ウ メ

〔果樹類＞落葉果樹＞核果類＞小粒核果類＞うめ〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
黒 星 病	生 育 期 (開花終了 ～ 5 月)	・果実への感染から発病までの潜伏期間は30日以上ある。 ・4月中旬～5月上旬の天候が低温多雨になると発生が多くなる可能性がある。 ・風通しや日照の悪い園で多発する。多発園では散布間隔を10日以内にする。
	収 穫 後 (8 ～ 9 月)	・翌年の発生源になる枝病斑を減らすとともに、花枝生産をする場合はその品質向上をはかるため、収穫後から9月末までに薬剤を散布する。
かいよう病	葉芽発芽前 ま で (休 眠 期)	・常発地では休眠期防除が不可欠だが、強風を受けやすい園では防風垣や防風ネットによる防風対策が必須である。
	果実肥大期 (4月上旬～ 5月上旬)	・強風や降雹等で傷害を受けた場合は、治療効果のある抗生物質剤を速やかに散布する。 ・かいよう病の防除対策は欄外参照。
灰 色 か び 病	生 育 期 (開花終了直後 ～ 4 月 中 旬)	・開花後のガクや雄しべで発病が始まり、幼果では多くの場合、果梗周辺にやや窪んだ病斑を生じる。好適な条件が揃うと、果実全体が菌糸で覆われ落果する。 ・開花盛期から開花終期までの日数が10日以上に長引くと発生が多くなる傾向にある。
す す 斑 病	生 育 期 (5月下旬～6 月 上 旬)	・5、6月に雨の多い年や収穫期が遅い谷あいの園で多発しやすい。 ・ネット収穫を行う場合は、収穫開始時期を考慮して最終薬剤散布の時期を調整する。
環 紋 葉 枯 病 葉 炭 疽 病	収 穫 後 (7 ～ 8 月)	・発生前の予防散布または発生初期に薬剤散布を行う。
切り口および傷口の癒合促進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直 後 、 及 び 病 枝 切 除 後	・切り口にトップジンMペーストを適量塗布する。
アブラムシ類	生 育 期 (4 月 ～ 5 月 中 旬)	・幼木や窒素過多で生育旺盛な樹に発生が多い。 ・展葉期から5月に高温、乾燥が続くと多発しやすい。 ・展葉直後の新梢や幼果に寄生して吸汁する。新梢に寄生すると葉は萎縮する。
ノコトガリキリガ (モモノハナムシ)	開花終了直後 ～ 幼 果 期	・花蕾および幼果に貫入・食害する。
コスカシバ	休 眠 期 (落 葉 後 ～ 萌 芽 前)	・この時期にガットキラー乳剤を用いる場合、樹幹部および主枝に十分散布する。新芽の被害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼虫発生期 (5月～10月)	・生物農薬を用いる場合は、効果を高めるため晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。 ・虫糞が見られるところを中心に主幹部全体に散布する。
	成虫発生期 (5月上中旬)	・この時期は成虫の交尾阻害により密度低下をはかる性フェロモン剤を用いる。 ・ディスペンサーを枝に巻き付け固定する。効果は1シーズン限りなので毎年付け替える。 ・効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて防風垣の設置を行う。
ケ ム シ 類	幼虫発生期	・ウメを食害するケムシ類としては、春季に発生するマイマイガ、オビカレハ、夏秋季に発生するモンクロシャチホコ等がある。
	[耕種的防除]	・せん定時に越冬卵塊を取り除く。 ・卵は1か所に固めて産み付けられ、若齢幼虫のうちは狭い範囲に群がる性質がある。分散前の若齢幼虫のうちに発見し、捕殺する。
ハマキムシ類 アメリカシロヒトリ	収 穫 後 (8 ～ 9 月)	・害虫の早期発見に努める。

病害虫名	防除時期	摘 要
カイガラムシ類	第1世代発生期 (4月下旬 ～5月中旬)	・ウメシロカイガラムシ、タマカタカイガラムシの防除対策は欄外参照。 ・成虫のカイガラをめぐって、産卵～幼虫ふ化時期を把握し、発生初期に散布する。 ・ウメシロカイガラムシは幼虫発生初期および7～10日後の2回防除すると効果が高い。 ・休眠期防除参照。
カイガラムシ類 幼 虫	第2世代発生期 (7月中下旬)	
ウメシロ カイガラムシ	第3世代発生期 (8月下旬 ～9月上旬)	
ケシキスイ類	収 穫 前	・ウメ果実を食害するのはアカマダラケシキスイであり、落果後、数時間で幼虫が果実へ侵入し始める。 ・成虫は5月中旬～秋まで発生し、幼虫は6月上旬～8月上旬まで発生する。
アカマダラ ケシキスイ	[耕種的防除]	・園内に落ちている梅が増殖源となるため、早急に園外へ撤去する。 ・落下果実をなるべく地面に接触させないよう、ネット収穫では朝夕2回以上こまめに果実の回収を行う。

② かいよう病の防除

本病は、果実に病斑を作り商品価値を低下させるだけでなく、開花期に花梗付近に感染したものは後に黒変して、落花(落果)につながるが多い。また、感染した枝は、病斑部分で亀裂を生じたり、折れたりすることがある。しかし、本病に対して卓越した効果のある防除体系は確立されていないので、次の各項目により総合的な対応を行う。

・防風垣・防風ネットの設置

風雨によってできた傷口が主な感染経路となるので、樹園地の周囲に防風垣や防風ネットを整備して、風当たりを和らげることが薬剤散布よりも重要である。なお、防風対策は、ミツバチなどの訪花昆虫の活動にも良い影響をもたらす。

・抗生物質薬剤の散布

暴風雨や降雹があった場合、天候回復後すみやかに散布する。また、常発園では4月中旬に散布すると発生抑制効果が高い。

・ボルドー剤の散布

防風対策が不十分な場合、果実肥大期の薬剤散布だけでは、十分な効果が認められない事例が多い。葉芽発芽までのボルドー剤散布によって、かいよう病の越冬菌密度を低下させることができ、果実肥大期に散布する薬剤の効果を高めることができる。

③ カイガラムシ類の防除

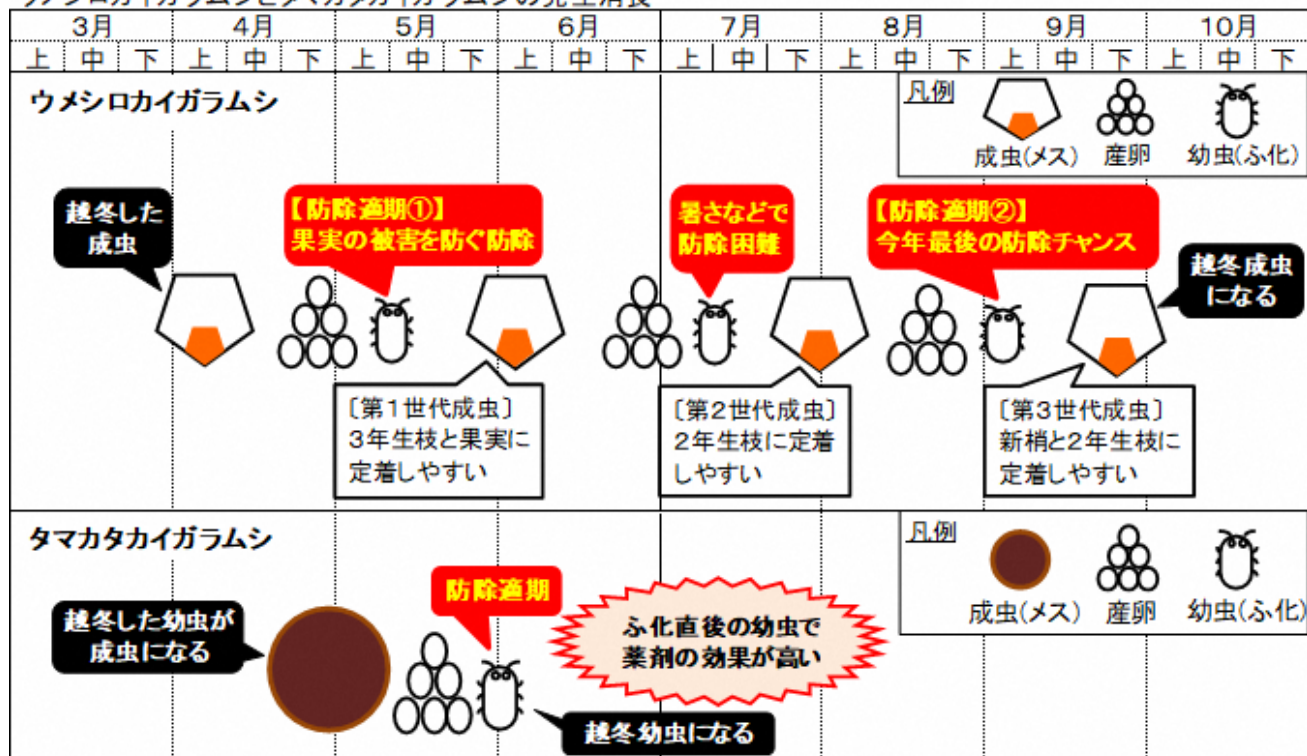
ウメシロカイガラムシ

- ・年3回発生し、5月上旬に発生する第1世代が果実にも加害する(次頁図)。
- ・多数の幼虫や成虫が集団でウメ樹に寄生するため、樹勢の低下やこうやく病の発生原因になる。
- ・ふ化から2週間程度でカイガラを形成するため、ふ化直後に薬剤散布しないと防除効果が著しく低下する。
- ・薬剤の効果を得るためには、雌成虫のカイガラをめぐって産卵時期を把握しながら、ふ化時期を正しく判断し、ふ化最盛期に適切な薬剤を用いて防除を行う。

タマカタカイガラムシ

- ・幼虫と雌成虫が寄生して、吸汁加害する。多発すると落葉が早まったり、枝が枯死する恐れがある。
- ・年1回発生する。2齢幼虫で越冬し、5月下旬～6月上旬にふ化する(次頁図)。
- ・もっとも有効な防除時期はふ化直後の5月末頃であり、日陰部を好んで定着するため、樹の下から吹き上げて薬剤を散布すると効果が安定する(平成29年度実用化技術)。

ウメシロカイガラムシとタマカタカイガラムシの発生活消長



④ モモヒメヨコバイの生態と防除

本県でのモモヒメヨコバイの発生は、令和6年に初めて確認（同定）された。成虫は、体長3～3.5mmで、体色は黄緑色から緑色。幼虫は若齢の時は薄い黄色で、老齢になるにつれて濃くなり、成虫と同じ緑色になる。複眼は黒く、頭頂部に特徴的な黒点がある。詳しい生態は明らかにされていないが、成虫で越冬する可能性があり、1年に複数の世代が発生すると考えられる。

幼虫・成虫が葉を吸汁することで加害し、葉がかすり状に白く脱色し、やがて黄化する。被害量が多いと早期落葉し、翌年の樹勢、収量への影響があると考えられる。被害葉の裏側には、幼虫の白い脱皮殻が付着していることが多い。

国内ではウメ、モモ、ハナモモ等のバラ科の果樹や花木への加害が確認されており、海外ではナシ、リンゴ、ポポー等への加害も報告されている。

春先から圃場内をよく見回り、発生、被害の早期発見に努める。防除の際には、必ず登録のある薬剤を散布する。通常の薬剤防除を行っている生産園地では、本種による大きな被害は確認されていないが、放棄園など管理不足の園地では急速な増殖が見られることから、地域で連携した防除対策が重要である。

⑤ スプリンクラー防除

薬剤散布の作業を省力化できるが、薬液量は手散布の約2倍必要になる。また、枝葉が繁茂した状態では枝幹への薬液の付着が劣るため、カイガラムシ等の枝幹害虫に対する防除や5月中旬以降のすす斑病防除は、従来どおり手散布で行う必要がある。

ウメ【殺菌剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								
									かいよう病	すす斑病	すす斑病（うめ）	灰色かび病	環紋葉枯病	黒星病	切り口及び傷口のゆ合促進	葉炭疽病	銅水和剤による薬害の軽減
うめ	ICボルト®-66D	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200～700g/10a	散布	50倍								
うめ	Zボルト®	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200～700g/10a	散布	500倍								
うめ	イオウフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		発病前～発病初期	-	200～700g/10a	散布						500倍			
うめ	インダ®フロアブル	フェンチンコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布		5000倍				5000倍			
うめ	オルフィン®ラフロアブル	テブコナゾール・フルピルラム水和剤	"「-」(I*),3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布						3000倍			
うめ	カスミン液剤	カスカイシン液剤	24		収穫30日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	500倍								
うめ	サルファーゾル	水和硫黄剤	"UN(I*)		発病前～発病初期	-		散布						500倍			
うめ	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布		2000～3000倍				2000～3000倍			
うめ	ストロビート®ライフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布		2000～3000倍		2000倍	2000倍	2000～3000倍			
うめ	デランフロアブル	ジチアノ水和剤	M9	劇	収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布		1500～2000倍				1500～2000倍			
うめ	ナリアWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		収穫7日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布		2000倍			2000倍	2000倍			
うめ	パリダシン液剤5	パリダマイシン液剤	U18		収穫7日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布	500倍								
うめ	ベルコートフロアブル	イミノタジソアルヘンシル酸塩水和剤	M7		収穫30日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布		2000倍		2000倍		2000倍			
うめ	ベルコート水和剤									2000倍		2000倍	2000倍	2000倍			
うめ	ボリヘリン水和剤	イミノタジン酢酸塩・ボリホキシ水和剤	"「-」(I*),M7		収穫30日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布				1000倍		1000倍			
うめ	マイコシールド®	オキシテラサイクリン水和剤	41		収穫21日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布	1500倍								
うめ	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		収穫45日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布				1000～1500倍	1000～1500倍				
小粒核果類	オソサイド®水和剤80	キャブタン水和剤	M4		収穫21日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布		800倍				800～1000倍			
小粒核果類	カナメフロアブル	インビルフルキサム水和剤	7	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布			4000倍			4000倍			
小粒核果類	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	1		【A】	3回以内		塗布							原液		
小粒核果類	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫21日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布					1000～1500倍	1000～1500倍		1000～1500倍	
小粒核果類	ネクスターフロアブル	イソピラザラム水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布						1500倍			
小粒核果類	パレート®15フロアブル	ピラゾフルミド®水和剤	7		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布			2000倍	2000～3000倍		2000～3000倍			
小粒核果類	フルツセイバー	ベンチオピラト®水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布						1500～2000倍			
小粒核果類	マスタビース水和剤	シュートモスロディア水和剤	「-（生）」		収穫前日まで	-	200～700g/10a	散布	1000～2000倍								
小粒核果類	ミキワ20フロアブル	イプフルフェキソ水和剤	52		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布						2000倍			
小粒核果類(すももを除く)	スターナ水和剤	オキソリニック酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000倍								
小粒核果類(すももを除く)	ムッシュボルト®-DF	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200～700g/10a	散布	500倍								
うめ	クレアノン	炭酸カルシウム水和剤	-		-	-		【Z】									200倍

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

使用方法：【Z】 銅水和剤に混用して散布

ウメ【殺虫剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									アカマダラシキスイ	アブラムシ類	アメリカシロヒトリ	ウメシロカイガラムシ	カイガラムシ類	カイガラムシ類幼虫	ケンキスイ類	カムシ類	コスカシハ	ノコメトガリキリガ	ハマキムシ類
うめ	アクトア顆粒水溶剤	チアマトキサム水溶剤	4A		収穫7日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		2000～3000倍									
うめ	アディオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		3000倍									
うめ	アブロードフロアブル	アブロードジェン水和剤	16		収穫7日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布						1000倍					
	アブロード水和剤				収穫後～落葉前									1000倍					
うめ	ガットキラ-乳剤	MEP乳剤	1B		休眠期(落葉後～萌芽前)	2回以内		【Z】									100倍		
	スミチオン乳剤				収穫14日前まで		200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		1000～2000倍	1000倍								1000倍
うめ	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		2000～4000倍					2000倍	2000～4000倍			
うめ	バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド水和剤	4A	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	4000倍	2000～4000倍									
うめ	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		開花期まで	1回	5～200 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	【Z】									200倍		
					収穫前日まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布								4000倍	4000倍		
うめ	マブリック水和剤20	フルバリネット水和剤	3A	劇	収穫21日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		4000倍						4000倍			
うめ	モスビラン顆粒水溶剤	アセトアミド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		2000～6000倍			2000倍		2000倍			2000倍	
小粒核果類	アルバリオン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		2000倍									
小粒核果類	ウララDF	プロニカミド水和剤	29		収穫7日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		2000～4000倍									
小粒核果類	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布				2000倍							
小粒核果類	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		2000～4000倍			2000倍						
小粒核果類	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		2000倍									
小粒核果類	モベントフロアブル	スピロトラマト水和剤	23		収穫7日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		2000倍			2000倍						
小粒核果類(すももを除く)	ダイアジノン水和剤34	ダイアジノン水和剤	1B	劇	収穫21日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		1000～1500倍	1000～1500倍								1000～1500倍
果樹類	バィオセーフ	スタイナーネマカーボカブサエ剤	「-(生)」		幼虫発生期	-	25 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$	【Y】										2500万頭(約10g)	
果樹類	スシバコンL	シナンセルア剤			成虫発生初期から終期			【X】									8g/100本製剤		

使用方法：【Z】樹幹部及び主枝に散布、【Y】虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布、【X】ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する

(2) ナ シ

〔果樹類＞落葉果樹＞仁果類＞なし〕

① 防除のポイント・注意点

病害虫名	防除時期	摘 要
黒 斑 病	幼 果 期	・「二十世紀」では袋かけ直前に薬剤を散布し、防除後は時間を空けないで袋かけを行う。 ・5月下旬～6月は感染最盛期なので、7日おきに防除し、梅雨時期には展着剤を必ず使用する。
黒 星 病	脱 苞 期 ～ 開 花 前	・りん片がずれ始めた頃に薬剤を散布すると効果が高い。
	幼 果 期 ～ 果 実 肥 大 期 および 収 穫 期	・春先に降雨が多く、低温の年は多発する。 ・防除が必要なときは、雨の止み間や少雨でも防除する。 ・9～10月は秋季発生期であり、収穫期間中でも使用基準を守って薬剤散布する。
	収 穫 後	・休眠期防除参照
	[耕種的防除]	・病斑がついている枝や芽は切り取り、園外で焼却処分する。 ・欄外参照
赤 星 病	・開花直前～5 月 上 旬	・多発園では、初発期とさらにその1週間後に散布する。
	[耕種的防除]	・中間宿主であるビャクシン類を周辺(1km程度)から取り除く。
輪 紋 病 (いぼ皮病)	剪定整枝時及 び病患部 削り取り直後	・枝幹部のいぼにトップジンMペーストを塗布して、いぼからの孢子飛散を封じ込める。
	6 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬	・摘果直後・梅雨期・果実肥大後期が、防除適期である。
胴 枯 病	剪定(整枝)時及 び病患部削り取り 直 後	・せん定直後の切り口にトップジンMペースト、またはバッチレート塗布する。 ・特に、「幸水」は予防効果が高い。 ・生育期にも病患部の早期発見に努め、見つけ次第、病患部を大きめに完全に削りとり、その傷あとおよび周辺部に十分塗布する。
白 紋 羽 病 欄外参照	収穫30日前ま で	・休眠期処理では、根を露出させ病患部切除後に薬剤をかん注する。 ・生育期処理では、土を掘り返さず、かん注器により土壌に注入する。

病害虫名	防除時期	摘 要
カメムシ類	5 月 中 旬 ～ 9 月 上 旬	・成虫が山林から果樹園に飛来し、幼果期から収穫期まで加害するため、常に発生動向に注意する。
ナシゲンバイ	5 月 下 旬 ～ 6 月 中 旬	・夏から秋にかけて高温、乾燥が続く年は発生に注意する。
ヤ ガ 類 (果実吸汁蛾類)	[被 害 時 期] 7 月 中 旬 ～ 収 穫 期	・幼虫が山林原野で发育し、成虫が夜間のナシ園に飛来して果実を吸汁する。近くに山林原野があると被害を受けやすい。 ・ナシを加害するヤガとしてアケビコノハ、フクラスズメ、ナシケンモンがある。
	[耕種的防除]	・ 薬剤による防除法はなく、多目的防災網等でナシ園全体を被覆し、成虫の侵入防止をはかる。 ・忌避効果のある黄色灯を設置し、夜間に点灯する。
アブラムシ類	5 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬	・展葉期には葉の薬害が発生しやすいので注意する。
カイガラムシ類	5 月 上 旬 ～ 7 月 中 旬	・特に春先の発生に注意する。 ・5月上～中旬、7月上～中旬頃の幼虫ふ化期から若齢幼虫期に防除する。
クワコナ カイガラムシ		・ 休眠期防除参照
コナカイガラムシ 類若 齢 幼 虫	7 月 上 旬 ～ 中 旬	
	[コナカイガラムシ類の耕種的防除: バンド誘殺法]	・9月下旬までに主枝や垂主枝にクラフト紙を巻きつけ、12月～2月に取り外して焼却、駆除する。
ナシホソガ (ナシノカワモグリ)	6 月 下 旬 ～ 7 月 上 旬	・6月下旬から7月上旬頃の越冬世代成虫発生最盛期を中心に防除する。
シンクイムシ類	7月上旬～中旬	・「豊水」では、さらに8月中～下旬の間に薬剤防除を行う。
ナシヒメシンクイ	成 虫 発 生 初 期	・性フェロモン剤は、ディスペンサーを細枝などに巻き付け、圃場内で均一になるように設置する。晩生品種には残効が及ばないことがあるので、8月中旬に50本/10aを追加で設置する。
	[耕種的防除]	・被害枝、被害芽は切除後に焼却する。
ハマキムシ類	5 月 中 旬 ～ 6 月 下 旬	・発生状況を見ながら、ふ化幼虫の最盛期に防除する。
ハ ダ ニ 類 欄外参照 休眠期防除参照	[耕種的防除]	・雑草中で増殖を繰り返すので、草刈りを励行する。なお、草刈りに合わせて薬剤を散布する。 ・9月中旬に樹幹部にコモ等をまきつけ、バンド誘殺する。
ニセナシサビダニ 欄外参照	5 月 上 旬 ～ 6 月 上 旬	・本種は、ナシの徒長枝先端部の新葉に寄生して吸汁加害するほか、増殖すると葉にさび症状を呈する被害を発生させる。被害葉は褐変、変形し、被害が進行すると早期に落葉する。 ・被害の発生程度には品種間差があり、「二十世紀」など葉に繊毛の多い品種で著しい。 ・ 休眠期防除参照

② 黒星病防除

発生の特徴

- ・9月以降の罹病落葉とりん片病斑が伝染源となり、翌年の3月中旬頃から5月下旬頃にかけて降雨のたびに胞子が飛散し、伝染する。その後、病斑上に形成された分生子は、降雨時に分散して伝染を繰り返す。
- ・開花直前から開花後約2週間までに、降雨日が多いと感染が増大する。
- ・葉・葉柄・りん片・花そう基部・果実・新梢に、発病する。もともと感受性が高い「幸水」では、満開40日後頃には感受性がいったん低下するが、その後再び徐々に高まり、満開75～90日後に最盛期に達する。

防 除 法

- ・もともと重要な防除時期は、開花直前から開花後2週間までであり、この時期の薬剤防散布を徹底する。
- ・落葉は、集めて土中に埋めるか焼却する。乗用草刈機での粉碎、ロータリーでの粉碎、すき込みも効果がある。
- ・りん片および芽基部の病斑は、開花直前までに切除する。
- ・施肥量の適正化とともに、風通し・日当たりを良くして、健全な樹に育てる。

③ 白紋羽病防除

発生の特徴

- ・春季の発芽が遅れ、新梢伸長が悪くなる。葉色はやや淡くなり、果実は小玉傾向となる。
- ・花芽の数が多くなり、秋季の紅葉、落葉が早くなる。
- ・地上部にこのような症状が出た樹の根を掘り上げてみて、根に真っ白い菌糸が扇状に密着している場合は、白紋羽病と診断される。

防 除 法

- ・上記のような特徴が一見して分かる場合は、防除が困難な場合が多いので、園内をよく見回り早期発見、防除に努める。
- ・重症の樹では休眠期処理とし、樹の周囲の半径1m、深さ15cm程度の土を掘り上げ、根を露出させる。病根を除去した後、薬剤かん注し、埋め戻す土と薬液がよく混ざるようにしながら埋め戻す。
- ・軽症樹や重症樹の隣接樹では、生育期に土壌かん注器を用いて、薬剤をかん注処理する。

④ ハダニ類、ニセナシサビダニの防除

ダニ剤の特性と使用上のポイント

- ・前年多発した園では、休眠期防除とともに展葉後なるべく早い時期に防除する。
- ・ハダニ類は繁殖が早く、高密度になると防除が困難になるので、発生初期に薬剤散布する。
- ・多発園では、5～6日おきに系統の異なる薬剤で2～3回防除する。
- ・浸透移行性がない薬剤は、かけ残しのないように葉の表裏に丁寧に散布する。
- ・成虫に対する防除効果がない薬剤は、薬剤の効果発現には10日程度を要する。

ナシ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）							
									黒星病	黒斑病	傷口の ゆ合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	胴枯病	白紋羽病	輪紋病
なし	ICボルト-48Q	銅水和剤	M1		収穫後～ 開花前	-	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	30倍							
なし	アクサーフロアブル	ジフェノコナゾール・ フルキサビロキサド 水和剤	3,7		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000倍	2000倍		2000倍				2000倍
なし	アリエッティC水和剤	キャブタン・ホセチル 水和剤	M4,P7		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布		400～800 倍						400～800 倍
なし	アントラコール顆粒水和剤	ブロビネフ水和 剤	M3		休眠期	1回	300～400 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布		250倍						
					収穫45日 前まで	4回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	500倍	500倍		500倍				
なし	インダフロアブル	フェンプロコナゾール 水和剤	3		収穫7日前 まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	5000～ 12000倍			8000～ 12000倍				5000倍
なし	オーシャイン水和剤	オキサボコナゾールフマ ル酸塩水和剤	3		収穫前日 まで	5回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	3000～ 4000倍	2000倍		3000～ 4000倍				
なし	オキシラン水和剤	キャブタン・有機 銅水和剤	M1,M 4		収穫3日前 まで	9回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	500～600 倍	500～600 倍						500～600 倍
なし	オンリーワンフロアブル	テブコナゾール水 和剤	3		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000～ 4000倍	2000倍		2000～ 4000倍				2000倍
なし	カナメフロアブル	インビルフルキサム水 和剤	7	劇	収穫前日 まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	4000～ 8000倍	4000倍		4000～ 8000倍				4000倍
なし	モノドール水和剤80	有機銅水和剤	M1		収穫3日前 まで	9回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	1200～ 2000倍	1200～ 2000倍						1200倍
なし	モノドール顆粒水和剤				収穫3日前 まで	9回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	1000倍	1000倍						1000倍
なし	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		収穫30日 前まで	5回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	400～600 倍	400～600 倍		400～600 倍				400～600 倍
なし	スクレアフロアブル	マンデストロビン水 和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000～ 3000倍							2000～ 3000倍
なし	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール 水和剤	3		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000～ 4000倍	2000倍		2000～ 4000倍				2000倍
なし	ストロートライフフロアブル	クレスキシメチル水 和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	3000倍	2000～ 3000倍						2000～ 3000倍
なし	セルカデイスDフロアブル	ジチアノン・フルキサ ビロキサド水和 剤	7,M9	劇	収穫60日 前まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	1500倍	1500倍		1500倍				
なし	チオノックフロアブル	チラム水和剤	M3		収穫30日 前まで	5回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	500倍	500倍		500倍				
なし	デランフロアブル	ジチアノン水和剤	M9	劇	収穫60日 前まで	4回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	1000倍	1000倍		1000倍				1000倍
なし	ドクリンフロアブル	有機銅水和剤	M1		収穫3日前 まで	9回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	1000倍	1000倍						1000倍
なし	トップジンMペースト	チオファネートメチル ペースト剤	1		【A】	3回 以内		塗布					原液			
					【B】					原液				原液		原液
なし	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水 和剤	3		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000～ 3000倍			2000～ 3000倍				
なし	トレノックスフロアブル	チラム水和剤	M3		収穫30日 前まで	5回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	500倍	500倍		500倍				
なし	ナリアWDG	ビラクロストロビン・ ボスカリド水和 剤	11,7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000倍	2000倍						2000倍
なし	ネクスターフロアブル	イソビラザム水 和剤	7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	1500～ 3000倍	1500倍		1500～ 3000倍				1500倍
なし	バシタック水和剤75	メダロニル水和剤	7		収穫60日 前まで	5回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布				500～ 1000倍				
なし(西洋 なしを除く)	ハースト顆粒水和剤	TPN水和剤	M05		収穫後～ 落葉終了 まで	3回 以内	200～ 700L/10a	散布	1000倍							

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）							
									黒星病	黒斑病	傷口の ゆ合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	胴枯病	白紋羽病	輪紋病
なし	パッチレート	有機銅塗布剤	M1		【C】	3回 以内		【Z】			原液			原液		
なし	パレート1570アンプル	ビラジフルミド水和剤	7		収穫前日まで	2回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	2000～3000倍	2000倍		2000～3000倍				2000～3000倍
なし	ファンタジスタ顆粒水和剤	ビリンカルブ水和剤	11		収穫前日まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	3000～4000倍	3000～4000倍						3000～4000倍
なし	フルツセイバー	ベンチオビラト水和剤	7		収穫前日まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1500～3000倍			1500～3000倍				
なし	フロンサイドSC	フルアジナム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	100～200 $\frac{\text{g}}{\text{樹}}$	土壌灌注							1000倍	
							200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	2000～2500倍	2000～2500倍						2000倍
							50～100 $\frac{\text{g}}{\text{樹}}$	土壌灌注							500倍	
なし	ペランティーフロアンプル	メフェントリフルコゾール水和剤	3		収穫14日前まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	8000倍							
なし	ペルクートフロアンプル	イミノクタジソナルベ ンシ酸塩水和剤	M7		収穫14日前まで	5回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1500倍	1500倍						1500倍
なし	ペルクート水和剤				収穫14日前まで	5回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1000～1500倍	1000～1500倍						1000～1500倍
なし	ボリベリン水和剤	イミノクタジン酢酸塩・ボリオキシ水和剤	"「-」 (I*),M 7		収穫14日前まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1500倍	1500～2000倍						1500倍
なし	ミキ72070アンプル	イプフルフェノキン水和剤	52		収穫前日まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	2000～4000倍							
なし	ユニックス顆粒水和剤47	シプロジニル水和剤	9		収穫21日前まで	3回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	2000倍	1000～2000倍						
なし	ロブラーール水和剤	イプロジオン水和剤	2		収穫14日前まで	5回 以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布		1000～1500倍						

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後、

【B】 剪定整枝時及び病患部削り取り直後、

【C】 剪定時及び病患部削り取り直後

使用方法：【Z】 剪定枝の切口、病患部の削除あとに塗布

ナシ【殺虫剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									アブラムシ類	カイガラムシ類	カメムシ類	クワコカイガラムシ	コナカイガラムシ類若齢幼虫	シツクイムシ類	ナシゲンバエ	ナシホソカ	ニセナシバダニ	ハダニ類	ハマキムシ類
なし	アデント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000倍		1000倍			1000倍				1000倍	
なし	アディオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000～3000倍		2000倍			2000～3000倍					2000倍
なし	ウララDF	フロニカミド水和剤	29		収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍										
なし	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1A	劇	収穫3日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	1000倍	1000倍				1000倍					1000倍
なし	コロマイト水和剤	ミルベメクチン水和剤	6		収穫前日まで	1回	400～700g/10a	散布										2000倍	
なし	サムコルフロアブル10	クロラントラニリブロール水和剤	28		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布						2500～5000倍					2500～5000倍
なし	サンマイト水和剤	ビリダベンソ水和剤	21A	劇	収穫21日前まで	1回	200～700g/10a	散布	1000～1500倍							1000～1500倍	1000～1500倍		
なし	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	5回以内	200～700g/10a	散布	1500～2000倍		1500倍			2000倍				↑ミカンハダニを除くハダニ類	
なし	スターマイトフロアブル	シェビラフェン水和剤	25A		収穫前日まで	1回	200～700g/10a	散布										2000倍	
なし	ダニコングフロアブル	ビフルブミド水和剤	25B		収穫前日まで	1回	200～700g/10a	散布										2000倍	
なし	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布										1000～2000倍	
なし	ダニトロフロアブル	フェンビロキシメト水和剤	21A		収穫14日前まで	1回	200～700g/10a	散布								1000～2000倍	1000～2000倍		
なし	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布						5000～10000倍					5000～10000倍
なし	トランスフォームフロアブル	スルホキサフルム水和剤	4C		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍	1000～2000倍									
なし	ニッソラン水和剤	ヘキシチアグクス水和剤	10A		収穫7日前まで	1回	200～700g/10a	散布										2000～3000倍	
なし	バーマチオン水和剤	フェンハレート・MEP水和剤	1B,3A	劇	収穫30日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍		1000～2000倍			1000～2000倍	1000倍	1000倍	1000～2000倍		1000倍
なし	ハチハチフロアブル	トルフェンビラト水和剤	"21A(I*)	劇	収穫30日前まで	1回	200～700g/10a	散布	2000倍			2000倍					2000倍		
なし	ハロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布										2000倍	
なし	ビラニカ水和剤	テラフェンビラト水和剤	"21A(I*)	劇	収穫14日前まで	1回	200～700g/10a	散布									1000倍	1000～2000倍	
なし	フェニックスフロアブル	フルベソジアミド水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布						4000倍					4000～6000倍
なし	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍		1000～2000倍								
なし	マトリックフロアブル	クロマフェジト水和剤	18		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布											1000～2000倍
なし	モスピラン顆粒水溶剤	アセタブリス水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍	2000～4000倍	2000～4000倍			2000～4000倍		4000倍			
なし(無袋栽培)	スミチオン水和剤40	MEP水和剤	1B	収穫21日前まで	6回以内	200～700g/10a	散布	800～1200倍			800～1000倍	800～1200倍		800～1200倍	800～1000倍				800～1200倍
なし(有袋栽培)				収穫14日前まで				800～1200倍			800～1000倍	800～1200倍		800～1200倍	800～1000倍				800～1200倍
なし(無袋栽培)	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B	収穫21日前まで	6回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍			1000倍	1500倍		1000倍	1000倍	1000倍			1000倍
なし(有袋栽培)				収穫14日前まで				1000～2000倍			1000倍	1500倍		1000倍	1000倍	1000倍			1000倍
日本なし	ダイヤジノソ水和剤34	ダイヤジノソ水和剤	1B	劇	収穫14日前まで	6回以内	200～700g/10a	散布	1000～1500倍				1000～1500倍	1000倍	1000～1500倍				1000～1500倍
果樹類	ナシメコン	オリフルア剤	- (7E)		成虫発生初期から終期		50～100本/10a	【A】						50～100本/10a	←ナシヒメジノカイ				

使用方法：【A】ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する。

(3) カ キ

〔果樹類＞落葉果樹＞かき〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
炭 疽 病	生 育 期	・一般に甘柿品種群で発生が多い。 ・若木や強せん定により新梢伸長の旺盛な樹で発生が多い。
	[耕種的防除]	・炭疽病が発生している枝は切り取って、焼却する。
落 葉 病	生 育 期	・円星落葉病と角斑落葉病があり、著しい落葉によって、果実が早期に軟化して落果する被害となる。 ・落葉病は5～7月に防除を行う。発病後の薬剤防除は効果がない。
	[耕種的防除]	・落葉病に罹病した落葉は、埋設または焼却処分を行う。
う どん こ 病	生 育 期	・初発を抑制する5月および病徴が見え始める8月の薬剤散布が有効である。 ・窒素肥料過多の樹に発病しやすいので、肥培管理を適切に行う。
す す 点 病	生 育 期	・カキ以外の宿主植物が多い山間部で発生が増加しやすい。
	[耕種的防除]	・密植や過繁茂を避け、通風を良好にする。
切り口および 傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直後、及び 病枝切除後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
アザミウマ類	生 育 期	・カキクダアザミウマおよびチャノキイロアザミウマがカキを加害する。
カキクダ アザミウマ	展 葉 期 ～ 幼 果 期	・4月中旬頃から越冬成虫がカキに飛来する。未展開葉の中を加害し、被害葉の葉縁は内側にカールする。6月上旬頃から幼果を加害する。
チャノキイロ アザミウマ	開 花 始 期 ～ 幼 果 期	・一般に「平核無」等の渋柿で発生が多く、甘柿での発生は少ない。 ・多様な植物に寄生し年間5～8回発生する。カキでは着果期を通して加害するが、開花から1か月間の薬剤散布が重要である。
	[耕種的防除]	・光の乱反射により飛来量が減少し被害が軽減されるので、地面に反射シート等を敷設する。 ・雑草が繁殖場所になるので、圃場内外の除草を行う。また、除草に合わせて防除を行う。
カキノヘタムシガ (カキミガ)	生 育 期	・発芽盛期から1週間後(4月中旬頃)が防除適期である。
	[耕種的防除]	・粗皮下において前蛹態で越冬するので、休眠期に粗皮削りを行う。
イラガ類 (イラガ)	生 育 期	・雑食性で、園地以外の樹でも発生するため、園周辺の樹も見回り、適宜、発生幼虫を駆除する。
カイガラムシ類	生 育 期	・排泄物に発生するカビが「すす病」となって果実を汚染する。
	[耕種的防除]	・粗皮下で越冬するので、休眠期に粗皮削りを行う。
フジコナ カイガラムシ	生 育 期	・第1世代(7月上旬～中旬頃)の薬剤散布が効果的である。
カメムシ類	6 月 上 旬 ～ 8 月 上 旬	・カメムシは夜間活動性なので、日暮れ前の薬剤散布が効果的である。
ハマキムシ類	開 花 後 ～ 8 月 上 旬	・ハマキムシの幼虫は巻葉の中にいて薬剤がかかりにくいので、加害部に薬剤がよくかかるよう注意して散布する。

カキ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）				
									うどんこ病	すす点病	切り口及び傷口の癒合促進	炭疽病	落葉病
かき	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		収穫45日前まで	2回以内	200～700 ^g /10a	散布				400～800倍	400～800倍
かき	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布	3000倍			3000倍	3000倍
かき	ストロベリードライブアブル	クレソキシムメチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布	3000倍			3000倍	3000倍
かき	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*), 3		収穫45日前まで	2回以内	200～700 ^g /10a	散布	600倍			600倍	600倍
かき	デランフロアブル	ジチアン水和剤	M9	劇	収穫90日前まで	5回以内	200～700 ^g /10a	散布	2000倍			2000倍	2000倍
かき	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	1		【A】	3回以内		塗布			原液		
かき	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	6回以内	200～700 ^g /10a	散布	1000～1500倍	1000～1500倍		1000～1500倍	1000～1500倍
かき	ナリアWDG	ピラクロストロビン・ボスカリト水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700 ^g /10a	散布	2000～3000倍			2000～3000倍	2000～3000倍
かき	ネクスターフロアブル	イピラザム水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布	1500倍				1500倍
かき	ベルクート水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	M7		収穫14日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布	1000～1500倍	1000～1500倍		1000～1500倍	1000～1500倍
かき	ベソレート水和剤	ベノミル水和剤	1		収穫前日まで	6回以内	200～700 ^g /10a	散布	2000～3000倍	2000～3000倍		2000～3000倍	2000～3000倍

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

カキ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）									
									アザミウマ類	イラガ	イラガ類	カイガラムシ類	カキタアザミウマ	カキノハタムシガ	カメムシ類	チャノキノアザミウマ	ハマキムシ類	アジコナカイガラムシ
かき	アグロスリン水和剤	シベルメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍					1000～2000倍	1000～2000倍			
かき	アトマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	収穫7日前まで【A】	3回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍						1000倍			
かき	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		収穫45日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布					1500倍	1500倍		1500倍		1500倍
かき	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布					2000～4000倍	2000～4000倍				
かき	キラップフロアブル	エチプロール水和剤	2B		収穫7日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000倍						2000倍			
かき	コデツフロアブル	クロルフェナール水和剤	13	劇	収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍		2000～4000倍			2000～4000倍				
かき	コルト顆粒水和剤	ピリフルキザン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布				2000～3000倍			2000～3000倍			
かき	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		収穫45日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布					1500倍	1500倍		1500倍		
かき	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	2000倍					1500～2000倍	1500倍			
かき	スミチオン水和剤40	MEP水和剤	1B		収穫30日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			800～1000倍			800～1200倍	800～1000倍			800～1200倍
かき	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	4A		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍					2000～4000倍	2000～4000倍			
かき	トクチオン乳剤	プロチオホス乳剤	1B		収穫75日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	1000倍					1000倍			1000倍	1000倍
かき	パーマチオン水和剤	フェンハレート・MEP水和剤	1B,3A	劇	収穫30日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍		1000倍			1000～2000倍	1000～2000倍		1000～2000倍	
かき	パダンSG水溶剤	カルタップ 水溶剤	14	劇	収穫45日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布		1500倍				1500～3000倍		1500倍		
かき	モスビラン顆粒水溶剤	アセタミプリド 水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍			2000～4000倍		2000～4000倍	2000～4000倍			

使用時期：【A】（ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く。）

(4) ブドウ

〔果樹類＞落葉果樹＞ベリー類等の小粒果実類＞ぶどう〕

① 防除のポイント・注意事項

病 害 虫 名	防 除 時 期	摘 要
褐 斑 病	休 眠 期	・発芽前から、予防散布する。
	幼 果 期 生 育 期	・病原菌は葉裏から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。 ・葉で発病し、多発すると黄変して早期落葉する。 ・米国系品種で、発生が多い。
	[耕種的防除]	・古くなった粗皮をはがし、落葉を回収して、いずれも園外で処分する。 ・巻きヒゲや病斑のある結果母枝を除去して、園外で処分する。
晩 腐 病	休 眠 期	・萌芽直前、新梢伸長期、開花期、落花期～小豆粒期、袋かけ直前、袋かけ後～梅雨期が、防除適期である。
	生 育 期	・6月初めから7月中旬まで、降雨が多いと越冬源からの一次伝染が多くなる。また、成熟期に降雨が多いと二次伝染が助長され、激発する。 ・摘粒を迅速に終わらせて、袋かけ・笠かけ前の薬剤散布後は薬液が乾き次第、袋かけをすみやかに行う。
	[耕種的防除]	・袋かけでは、袋の中に雨滴が入らないように、止め金をしっかり果軸に巻く。 ・病原菌は結果母枝・果梗・巻きヒゲなどで越冬するため、果梗・巻きヒゲ・不要な結果母枝は取り除く。また、二番成り果房は格好の発生源になるので、見つけ次第、除去する。 ・露地栽培で発生が多く、多湿条件でより発病しやすいが、ハウスや簡易雨よけなどの施設栽培により、発生の減少をはかることができる。
黒 と う 病	休 眠 期	・萌芽直後、新梢伸長期、開花期、落花期～小豆粒期、袋かけ直前、袋かけ後～梅雨期が、防除適期である。
	幼 果 期 生 育 期	・萌芽直前から梅雨明けまでの感染期に降雨が多いと多発し、特に4～5月の連続降雨は、発病を著しく助長する。
	[耕種的防除]	・巻きヒゲや病斑のある結果母枝を除去して、園外で処分する。 ・落花後の花冠(花カス)を落とす。
灰色かび病	開 花 期 ～ 幼 果 期	・病原菌は低温・多湿条件を好むため、春に天候不順の時に突発的に発病する。 ・開花期前後から、予防散布を行う。
	[耕種的防除]	・密閉した湿度が高いハウスで発病しやすいので、換気により湿度を低下させる。 ・発病した花穂や果房は、見つけ次第取り除き、園外(ハウス外)に埋設する。
べ と 病	開 花 期 ～ 果 実 肥 大 期	・欧州系品種は罹病性が高く、米国系品種は耐病性である。 ・梅雨や秋雨により病徴が急速にまん延するので、必ず予防的な薬剤散布を行う。 ・病原菌は気孔から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。
さ び 病	幼 果 期 ～ 果 実 肥 大 期	・病原菌は葉裏から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。
	[耕種的防除]	・アワブキ属植物が中間宿主となるので、可能な限り周辺のアワブキを伐採する。 ・被害葉が伝染源となるので、発生園では落葉を収集し、園外で処分する。
うどんこ病	開 花 期 ～ 果 実 肥 大 期	・欧州系品種は罹病性が高く、米国系品種は耐病性である。 ・通風不良園やハウス栽培で、発生しやすい。 ・適度な湿度が保持され、4～5月の日照時間が長いほど発病が多くなる傾向がある。 ・開花前後から予防散布を行う。

病 害 虫 名	防 除 時 期	摘 要
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病 患 部 削 り 取 り 直 後 、 及 び 病 枝 切 除 後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カ イ ガ ラ ム シ 類 コナカイガラ ム シ 類	開 花 前 または 袋 け 以 降 [耕種的防除]	・薬剤防除は、ふ化直後の幼虫をねらって行う。 ・粗皮の間隙やせん定切り口など、暗くて狭いところに好んで寄生する習性があるので、枝幹にも薬液がたつぷりかかるように散布する。 ・雌成虫が粗皮下で越冬するので、粗皮削りを行う。
アザミウマ類 チャノキイロ アザミウマ	開 花 前 落 花 後 袋 け 直 前	・チャノキイロアザミウマでは、穂軸の褐変や果皮のコルク化が発生する。 ・幼果になってからでは防除効果が低いため、開花前から袋かけ直前まで防除につとめる。 ・袋かけ直前に薬剤を散布し、袋内への害虫侵入を防ぐため隙間がないように留め金を巻き付ける。 ・成虫の発生予察には、黄色粘着トラップが有効である。
フ タ テ ン ヒメヨコバイ	生 育 期	・幼虫・成虫ともに葉裏から吸汁することで、葉の表面に灰白色のカスリ症状を示す。 ・ハウス内での発生が多く、激発すると排泄物で果粒を汚染する。 ・5～6月に防除すると、その後の発生は少なくなる。
スカシバ類 ブ ド ウ ス カ シ バ ク ビ ア カ ス カ シ バ	5 月 中 旬 収 穫 直 後 [耕種的防除]	・ブドウを食害するスカシバ類として、ブドウスカシバおよびクビアカスカシバがある。 ・ブドウスカシバは、5月下旬～6月に幼虫が主に新梢の髄(中心部)を食害する。 ・クビアカスカシバは、スズメバチに擬態した成虫が6～8月に発生し、7月下旬以降に幼虫食害部から虫糞木くずが目立つ。 ・クビアカスカシバに対しては、枝幹部や株元に薬剤を散布する。 ・クビアカスカシバは、虫糞の噴出部を見つけ、捕殺する。 ・薬剤付着および虫糞発見の効率を高めるため、粗皮はがしを行う。
ブ ド ウ トラカミキリ	休 眠 期	・越冬幼虫を対象に、休眠期防除は樹全体に薬剤を散布する。 ・新芽・新葉に被害を生じる恐れがあるので、萌芽前に散布を終える。
ハ ダ ニ 類 カンザワハダニ ナミハダニ ブドウサビダニ	生 育 期 または 休 眠 期 [耕種的防除]	・ハウス内での発生が多く、吸汁により葉が黄褐色や赤褐色に変色する。 ・緑系品種で、収穫期に加害されると果粒表面に茶褐点を生じる。 ・ナミハダニが激発すると、クモの巣状の糸張りが見られる。 ・発生初期に、薬剤を葉裏まで散布する。また、発生が多い場合は、散布間隔を短くする。 ・雑草中で繁殖するので、草刈りに合わせて薬剤を散布する。 ・抵抗性を発達させないように、同じ(系統)薬剤の連用はしない。 ・ 休眠期防除参照 ・粗皮の下で越冬するため、休眠期に粗皮削りを行い、園外に持ち出す。
コガネムシ類 コガネムシ類 成 虫	生 育 期 [耕種的防除]	・主にドウガネブイブイ、ヒメコガネの成虫が葉を食害し、発生が多くなると果実も食害される。 ・成虫は衝撃を与えると落下するので、反応の鈍い早朝に捕殺する。
ハマキムシ類	生 育 期	・チャノコカクモンハマキが花穂では蕾、花、花梗を綴り合せて食害し、果穂では果粒と果梗の間に糸を張り、果皮や果肉を食害する。
モンキクロノ メ イ ガ	生 育 期	・施設栽培に、寄生が多い傾向がある。 ・6～8月除葉葉被害の発生初期が、防除適期である。

ブドウ【殺菌剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農業の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								銅水和剤による葉害の軽減
									うどんこ病	さび病	べと病	灰色かび病	褐斑病	黒とう病	切り口及び傷口のゆ合促進	晩腐病	
ぶどう	ICボルドー66D	銅水和剤	M1		-	-	200～700g/10a	散布		50倍	25～200倍					100倍	
ぶどう	Zボルドー	銅水和剤	M1		-	-	200～700g/10a	散布		500～800倍	500～800倍		500～800倍				
ぶどう	アリエティ水和剤	ホセチル水和剤	P7		収穫30日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			800倍						
ぶどう	オンサイト水和剤80	キャブタンク水和剤	M4		収穫30日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			800倍	800倍	800倍	800倍		800倍	
ぶどう	オンリーワンフロアブル	ラブコザール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000倍	2000倍		2000倍	2000倍	2000倍		2000倍	
ぶどう	キノドール水和剤80	有機銅水和剤	M1		収穫45日前まで	4回以内 (開花後は1回)	200～700g/10a	散布			1200倍			1200～1600倍			
ぶどう	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		収穫45日前まで	1回	200～700g/10a	散布				1000～1500倍					
ぶどう	コサイト3000	銅水和剤	M1		-	-	200～700g/10a	散布		2000倍	2000倍						
ぶどう	ジマンダイセン水和剤	マンビブ水和剤	"UN(I*)		収穫45日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布		1000倍	1000倍		1000倍	1000倍		1000倍	
ぶどう	ストロベードライフロアブル	クレノキシムメチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	3000倍	3000倍	2000～3000倍	2000～3000倍	2000～3000倍	2000～3000倍		2000～3000倍	
ぶどう	デランフロアブル	ジチアノック水和剤	M9	劇	休眠期	1回	200～700g/10a	散布						200倍		200倍	
					【A】	2回以内					1000倍			1000倍		1000倍	
ぶどう	ドクリンフロアブル	有機銅水和剤	M1		収穫45日前まで	4回以内 (開花後は1回)	200～700g/10a	散布			600倍			600倍			
ぶどう	トップジンMベースト	チオファネートメチルベースト剤	1		【B】	3回以内		塗布							原液		
ぶどう	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫45日前まで	1回	200～700g/10a	散布	1000～2000倍			1000～2000倍	1000～2000倍	1000～2000倍		1000倍	
ぶどう	トリアミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～3000倍					2000倍			
ぶどう	ブルーセイバー	ベンチオビラト水和剤	7		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1500倍	1500倍		1500倍	1500倍	1500倍		1500倍	
ぶどう	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		収穫30日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000～3000倍			2000～3000倍					
ぶどう	ベンレート水和剤	ベノミル水和剤	1		休眠期	1回	200～700g/10a	散布						200～500倍		200～500倍	
					収穫45日前まで	3回以内			2000～3000倍			2000～3000倍	2000～3000倍	2000倍		2000～3000倍	
ぶどう	ホライズンドライフロアブル	シモザニル・ファモキシドン水和剤	11,27		収穫21日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			2500～5000倍		2500倍	2500倍		2500倍	
ぶどう	ボリアーリン水和剤	イミダクダジン酢酸塩・ボリアキシソ水和剤	"「-」 (I*),M7		収穫60日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	750～2000倍			750～1500倍	750～1000倍	750～1000倍		750～1000倍	
ぶどう	ムクシュボルドーDF	銅水和剤	M1		-	-	200～700g/10a	散布		500倍	500倍						
ぶどう	ランマンフロアブル	シアゾリファミド水和剤	21		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			1000～2000倍						
ぶどう	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		【C】	3回以内	200～700g/10a	散布				1000～1500倍		1000倍			
ぶどう	クレフソ	炭酸カルシウム水和剤				-		【a】									100倍

使用時期：【A】落弁期まで 但し、収穫75日前まで、【B】剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後、【C】開花期～幼果期、但し、収穫60日前まで

使用方法：【a】銅水和剤に混用して散布

(5) ミカ ン

〔果樹類＞かんきつ＞みかん〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
そ う か 病	展 葉 初 期 落 弁 期 梅 雨 期	・まん延すると防除困難になるので、発生初期に防除する。 ・展葉初期および落弁期の薬剤散布が、重要である。
	[耕種的防除]	・り病している枝や葉は、せん定時に取り除く。 ・湿度が高いと多発するので、谷間での栽培や密植・過繁茂状態を避ける。
黒 点 病	果 実 肥 大 期	・枯れ枝や園内に残したせん定枝が伝染源となり、降雨のたびに枯れ枝等から病原菌が飛散する。このため、多雨年や老木園で発生が多い。 ・幼果期・梅雨期・秋雨期前(8月中下旬)の防除効果が高い。
	[耕種的防除]	・枯れ枝はせん定で常時除去し、枯れ枝・せん定枝は園外で処分する。 ・ミカンの切り株がある場合には、肥料袋等をかぶせて病原菌の飛散を防ぐ。 ・適切なせん定により樹冠内部への採光を図り、枯れ枝の発生を抑える。
貯 蔵 病 害 〔青 か び 病〕 〔緑 か び 病〕	収 穫 の 1 0 ～ 3 0 日 前	・病原菌は土壌中にあり、秋季に土ぼこりとともに胞子が飛散して、果実に付着する。 ・果実表面の傷口から感染し、貯蔵中に発病する。
	[耕種的防除]	・着果期間中は、枯れ枝をこまめに除去し、果実の傷つきを防止する。収穫以後の果実では、収穫・運搬・選別などで果実に傷をつけないよう取扱いに注意する。 ・降雨時や降雨後または朝露など果実に水滴がある状態での収穫は、絶対に避ける。 ・貯蔵中は過湿にならないよう換気するとともに、腐敗果は見つけ次第除去する。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラムシ類	生 育 期	・ヤノネカイガラムシ越冬雌成虫の産卵は2か月にわたるため、第1世代幼虫は5～6月にかけて発生する。第2世代幼虫は、7月下旬頃に発生する。幼虫のふ化最盛期～ふ化直後に、薬剤散布する。 ・休眠期のマシン油乳剤の効果が高い。 <u>休眠期防除参照</u>
カイガラムシ類 幼 虫	[耕種的防除]	・天敵寄生蜂の生息を保護するため、寄生蜂産卵期(7月・9月)の殺虫剤散布はなるべく控える。 ・整枝せん定によって、通風、採光を良好に保つ。
ヤノネカイガラムシ (幼虫～未成熟成虫)		
ミカンハダニ	防 寒 被 覆 除 去 後	・越冬虫に対しては、マシン油乳剤の効果が高い。 <u>休眠期防除参照</u>
ミカンサビダニ	落 花 直 後 (5 月 下 旬 ～ 6 月 下 旬)	・晴天で乾燥が続くと、発生が増加しやすい。 ・そうか病および黒点病との同時防除を行う。
	梅 雨 明 け 後 (7 月 中 旬 ～ 9 月 上 旬)	・梅雨明け後から盛夏期にかけてダニ類は急激に増殖するので、初期発生に注意し、かけ残しのないように丁寧に散布する。
アザミウマ類	生 育 期	・チャノキイロアザミウマは、年 7～8 回も発生を繰り返す。ミカン園内での繁殖は少なめで、周辺の間宿主で繁殖した個体が、繰り返しミカン園に飛来する。
チャノキイロ アザミウマ	[耕種的防除]	・イヌマキ、サングジュ等の生垣、茶樹は中間宿主となるので、防風対策は防風ネットを用いる。 ・忌避効果のあるタイベックシートを樹冠下に敷設する。
アブラムシ類	生 育 期	・温州ミカンは、カンキツトリステザウイルス耐病性であるが、アブラムシの吸汁によって温州ミカンから伝播したウイルスが中晩柑類で発病するため、温州ミカンと中晩柑類の混植園などでは、アブラムシ類の発生に注意する。

病害虫名	防除時期	摘 要
カミキリムシ類	生 育 期 (6 ～ 7 月)	・成虫は、枝や葉を食害する。幼虫は地際部から主幹部に食入し、樹勢低下や樹体枯死を引き起こす。 ・成虫は、6月中旬頃から発生し、6月下旬～8月上旬頃に主幹部へ産卵する。 ・成虫防除は、樹冠全体へ散布し、幼虫防除は主幹部等へ散布または塗布する。
ゴ マ ダ ラ カ ミ キ リ ゴ マ ダ ラ カミキリ成虫	[耕種的防除]	・主幹部の雑草を除去し、隠れ家を減らす。 ・園内を見回って、成虫を捕殺する。 ・幼虫は、枝幹部の穴やひび割れを観察して、捕殺する。幼虫の食害痕には、トップジンMペースト等を塗布して、傷口のゆ合促進をはかる。 ・通風、採光を良好にする。
ミ カ ン ハ モ グ リ ガ	生 育 期 (7 月 下 旬 ～ 9 月 上 旬)	・7月以降に発生する夏秋梢に発生しやすい。 ・幼虫は、葉の内部を食害しながら進むため、不規則な曲がりくねった食害痕となる。 ・被害葉は、葉肉内に雨水が入ることで、かいよう病の発生が多くなる。 ・多発すると葉奇形となり、新梢生育が抑制される。
	[耕種的防除]	・食害された新梢は、せん定で除去する。

ミカン【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									そうか病	灰色かび病	黒点病	切り口及び傷口のゆ合促進	貯蔵病害（青かび病）	貯蔵病害（緑かび病）
みかん	エムダ [®] イファ [®] 水和剤	マンネブ [®] 水和剤	M3		収穫60日前まで	2回以内	200～700 ^g _{10a}	散布			600～800倍			
みかん	キノト [®] 水和剤40	有機銅水和剤	M1		収穫30日前まで	5回以内	200～700 ^g _{10a}	散布	500倍		400～500倍			
みかん	ジ [®] マンダ [®] イセン水和剤	マンゼ [®] ブ [®] 水和剤	"UN(I*)		収穫30日前まで	4回以内	200～700 ^g _{10a}	散布	400倍		400～800倍			
みかん	トップ [®] ジ [®] ンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	5回以内	200～700 ^g _{10a}	散布	1000～1500倍	1000～1500倍			2000～3000倍	2000～3000倍
みかん	ペ [®] ンレート水和剤	ペ [®] ノミル水和剤	1		収穫前日まで	4回以内	200～700 ^g _{10a}	散布	2000～3000倍	2000～3000倍			4000～6000倍	4000～6000倍
かんきつ	ストロビ [®] ート [®] ライフロア [®] ブ [®] ル	クレソキシムメチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200～700 ^g _{10a}	散布	2000～3000倍	2000～3000倍	2000～3000倍			
かんきつ	トップ [®] ジ [®] ンMペ [®] ースト	チオファネートメチルペ [®] ースト剤	1		【A】	3回以内		塗布				原液		
かんきつ	フロ [®] ンサイト [®] SC	フルアジ [®] ナム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	200～700 ^g _{10a}	散布	2000～2500倍	2000～2500倍	2000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

ミカン【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）							
									アザハ類	アザミマ類	アブラムシ類	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	かみきりムシ類	ゴマダラカミギリ	ゴマダラカミギリ 成虫	キハカミギリ	ミカンハダニ	ミカンハダニ	ミカンハダニ	ミカンハダニ	ミカンハダニ	ミカンハダニ	
みかん	アブロードフロアブル	アブラフェジソ水和剤	16		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布					1000倍											
みかん	アブロード水和剤											1000～ 1500倍												
みかん	ガットサイトS	MEP乳剤	1B		【A】	1回	-	【X】						1(原液)～ 1.5倍										
みかん							100～ 1000mL/樹									1.5倍								
みかん	スガトフロアブル	トラロメリン水和剤	3A	劇	収穫3日前 まで	5回 以内	200～700% /10a	散布									2000～ 4000倍						2000～ 4000倍	
みかん	ノモル乳剤	テフルベソロン乳剤	15		収穫21日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	2000倍														1000～ 2000倍	
みかん	ピラニカ水和剤	テフフェビラド水和剤	21A(1*)	劇	収穫前日 まで	1回	200～700% /10a	散布																
みかん	マツ乳剤	ルフェロン乳剤	15		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	2000～ 3000倍														2000～ 3000倍	
みかん	マブリック水和剤20	フルバリンート水和剤	3A	劇	収穫21日 前まで	2回 以内	200～700% /10a	散布		2000～ 4000倍													2000～ 4000倍	
かんきつ	ゴアフロアブル	クロルフェピル水和剤	13	劇	収穫前日 まで	2回 以内	200～700% /10a	散布											2000～ 6000倍					
かんきつ	サンマト水和剤	ビリダベソ水和剤	21A	劇	収穫3日前 まで	2回 以内	200～700% /10a	散布											2000～ 3000倍				2000～ 3000倍	
かんきつ	ダニトフロアブル	フェンロキメート水和剤	21A		収穫前日 まで	2回 以内	200～700% /10a	散布											2000倍	1000～ 2000倍				
かんきつ	ダントク水溶剤	クロアチンジソ水溶剤	4A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布		2000～ 4000倍						2000～ 4000倍							2000～ 4000倍	
かんきつ	トボソ乳剤	イトフェンロックス乳剤	3A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布											2000倍				1000～ 2000倍	
かんきつ	エスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫14日 前まで	3回 以内	200～700% /10a 30～75% /10a	散布													2000～ 4000倍		2000～ 4000倍	
かんきつ	エバントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		収穫7日前 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布		2000倍	2000倍	2000倍							2000倍				←サビダニ類	

使用時期：【A】6～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)但し収穫90日前まで

使用方法：【X】樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで塗布、【Y】樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで散布、【Z】主幹から株元に散布

(6) イチジク

〔果樹類＞落葉果樹＞いちじく〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
病 害 全 般	[耕種的防除]	・圃場全体の排水改善を図り、なるべく高いうねに植栽する。また、ハウス栽培を行う。 ・株元にマルチや敷き藁を行い、水滴による病原菌のはね上がりを防ぐ。 ・通風、採光の改善を図る。 ・発病部位(主に葉、果実、時には株全体)はすみやかに除去し、園外で焼却か土中深く埋める。 ・せん定によって切り取った枝や落葉も、園外で粉碎、焼却または土中深く埋める。
炭 疽 病	生 育 期	・果実だけに発病する。最初は暗褐色の小斑点が形成され、内部が淡褐色で周辺が濃褐色のへこんだ病斑に進展する。病徴が進むと鮭肉色の粘液を分泌する。 ・薬剤による防除法は確立していないため、耕種的防除を徹底する。
疫 病	6 ～ 9 月	・地際から根に発病し株全体を枯死させる「立枯れタイプ」、および葉、果実、新梢に発病する「樹上タイプ」がある。立枯れタイプは、株枯病との判別が付きにくい。 ・疫病による立枯れでは、地下部の表皮が溶けるように腐敗し、軟化する。 ・土壌中の病原菌が雨滴やかん水ではね上がり感染することから、露地栽培で発生が多い。
黒 か び 病	8 ～ 9 月	・酵母菌腐敗病と初期症状が似ているが、酵母菌腐敗病では発酵臭がある。 ・発病後の防除では、効果が上がりにくい。収穫開始までに、薬剤を予防散布する。
	[耕種的防除]	・ハウス栽培でも発生するので、晴天時には換気して湿度低下を図る。
そ う か 病	新 梢 伸 長 期	・葉・新梢・果実に発病し、降雨によって拡散するため、露地栽培で5～6月に降雨が多いと発生しやすい。 ・「蓬莱柿」、「カドタ」は発生しやすく、「ドーフィン」は発病が少ない。 ・新梢伸長初期および最下段の着果確認時が、薬剤散布の重点時期である。
さ び 病	7 ～ 8 月	・葉だけに発病し、葉裏に黄褐色や赤褐色の微細な病斑を形成する。 ・著しい発病により落葉し、果実肥大に悪影響を及ぼす。 ・盛夏期に、2週間間隔で薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・ハウス栽培でも発生するので、晴天時には換気して湿度低下を図る。
株 枯 病	定植時及び生育期	・最初は地際部の表皮が濃褐色のあざ症状になり、ひび割れが観察される。 ・上記症状は上部へ拡大し、主幹や主枝の内部が褐変腐敗し、株が枯死する。 ・土壌に病原菌が残存しやすく、改植しても高率で再発する。 ・定植時および5～10月に、月1回ずつ株元に薬剤を灌注する。
	[耕種的防除]	・保菌した挿し穂や苗木が感染源となるので、苗木や穂木は未発病地に由来するものを用いる。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
ショウジョウバエ類 (酵母腐敗病)	果実成熟期	・ショウジョウバエ等の昆虫が酵母腐敗病を媒介する主な原因となるので、ショウジョウバエに対して薬剤を散布する。
	[酵母腐敗病の耕種的防除]	・過熟果がショウジョウバエを誘引するので、適期収穫を行う。

病害虫名	防除時期	摘 要
アザミウマ類	生 育 期 (7月 末 まで)	・除草に合わせて、薬剤を散布する。 ・圃場内に粘着板を設置し、発生状況を把握する。 ・収穫初期(低節位の着果)に被害が多く、中～高節位では被害は減少する。
	[耕種的防除]	・光の乱反射により飛来量が減少し、被害が軽減されるので、地面に反射シート等を敷設する。 ・雑草が繁殖場所になるので、圃場内外の除草を徹底する。
カイガラムシ類 (幼 虫)	幼 虫 発 生 期	・6月上～中旬が、防除適期である。 ・休眠期防除参照
カミキリムシ類	4 ～ 7 月	・噴射式缶入り殺虫剤を用い、食入孔にノズルを差し込んで薬剤を噴射する。
	[耕種的防除]	・成虫は、見つけ次第捕殺する。幼虫は、食入痕に針金を差し込み、刺殺する。 ・ハウス栽培により、害虫の侵入を防ぐことができる。
キボシカミキリ 幼 虫	産 卵 期 ～ 幼 虫 喰 入 期	・生物農薬を使用する。生物農薬は、昆虫に寄生する性質を持ったセンチュウを製剤化した天敵農薬であり、効果を高めるため晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
クワカミキリ	4 ～ 7 月	・噴射式缶入り殺虫剤を用い、食入孔にノズルを差し込んで薬剤を噴射する。
ネ コ ブ センチュウ	5 月 また は 収 穫 終 了 後	・樹勢低下がみられたら、根こぶの有無を確認する。
ハ ダ ニ 類	5 月 ～ 9 月	・白い紙で葉裏をこすった時に付く赤い汁の有無で、発生を診断する。 ・前年多発した園では、休眠期防除とともに展葉後なるべく早い時期に防除する。 ・高密度に発生すると各薬剤とも効果を発揮しにくくなるので、発生初期にかけ残しのないよう丁寧に散布する。 ・多発園では、5～6日おきに系統の異なる薬剤で2～3回防除する。 ・休眠期防除参照

イチジク【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									さび病	そうか病	疫病	株枯病	黒かび病	切り口及び傷口の ゆ合促進
いちじく	Zホ [®] ルト [®] -	銅水和剤	M1		-	-	200～700 [㍊] /10a	散布			1000倍			
いちじく	アミスター107 [®] フロア [®] ブル	アゾ [®] キストロピ [®] ン水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	1000倍	1000倍	1000倍			
いちじく	オノリーワン [®] フロア [®] ブル	デ [®] コナゾ [®] ール水和剤	3		生育期 但し、収穫前日まで	3回以内	5～10 [㍊] /樹	灌注				2000倍		
いちじく	コサイト [®] 3000	銅水和剤	M1		-	-	200～700 [㍊] /10a	散布			1000倍			
いちじく	ダ [®] ユニール1000	TPN水和剤	M5		収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	2000倍		2000倍		2000倍	
いちじく	デ [®] ランフロア [®] ブル	ジ [®] チアノ [®] ン水和剤	M9	劇	収穫75日前まで	3回以内	200～700 [㍊] /10a	散布		1000倍				
いちじく	トップ [®] ジンM [®] ベ [®] -ースト	チオファネートメチルベ [®] -ースト剤	1		【A】	3回以内		塗布						原液
いちじく	トップ [®] ジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫7日前まで	5回以内	200～700 [㍊] /10a	散布		1000～1500倍			1000～1500倍	
					収穫前日まで	6回以内	1～10 [㍊] /株	灌注				500倍		
いちじく	トリフミン水和剤	トリフルミゾ [®] ール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	2000倍	2000倍				
					収穫前日まで	4回以内	1～10 [㍊] /株	灌注				500倍		
いちじく	ベ [®] ンレート水和剤	ベ [®] ノミル水和剤	1		収穫30日前まで	5回以内	1～10 [㍊] /樹	株元灌注				1000倍		
いちじく	ラ [®] リー水和剤	ミクロ [®] ブ [®] タニル水和剤	3		収穫前日まで	4回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	2000倍					
いちじく	ランマン [®] フロア [®] ブル	シアゾ [®] ファミド [®] 水和剤	21		収穫前日まで	3回以内	200～700 [㍊] /10a	散布			2000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

イチジク【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								
									アザミウマ類	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カミキリムシ類	キバシカミキリ	キバシカミキリ 幼虫	クワカミキリ	ショウジョウバエ類	ネコブセンチュウ
いちじく	アデント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍊] /10a	散布							1000倍		1000倍
いちじく	アデイオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	2000倍								
いちじく	アプロードフロアブル	アプロフェジン水和剤	16		収穫14日前まで	2回以内	200～700 [㍊] /10a	散布			1000倍						
いちじく	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		収穫45日前まで	1回	200～700 [㍊] /10a	散布	2000倍								
いちじく	ガットサイトS	MEP乳剤	1B		【Z】	3回以内	-	【a】				原液					
いちじく	コロマイト水和剤	ミルベメクチン水和剤	6		収穫前日まで	1回	200～700 [㍊] /10a	散布									2000倍
いちじく	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		収穫45日前まで	1回	200～700 [㍊] /10a	散布	2000倍								
いちじく	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	2000倍								
いちじく	ダニコングフロアブル	ビフルプロミド水和剤	25B		収穫前日まで	1回	200～700 [㍊] /10a	散布									2000倍
いちじく	ダニサハフロアブル	シフルメフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍊] /10a	散布									1000～2000倍
いちじく	ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメート水和剤	21A		収穫3日前まで	1回	200～700 [㍊] /10a	散布									1000～2000倍
いちじく	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	4A		収穫3日前まで	3回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	2000～4000倍			2000倍					
いちじく	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	5000倍						10000倍		
いちじく	ニッソラン水和剤	ヘキシチアゾックス水和剤	10A		収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍊] /10a	散布									2000～3000倍
いちじく	ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート粒剤	1B		収穫60日前まで	1回		樹冠下処理								20kg/10a	
いちじく	バイセーフ	スタイナーネムカーボキサエ剤	「-（生）」		産卵期～幼虫喰入期	-	2.5 [㍊]	【b】					2500万頭（約10g）				
いちじく	バロックフロアブル	エトキサール水和剤	10B		収穫前日まで	1回	200～700 [㍊] /10a	散布									2000倍
いちじく	マイトコーネフロアブル	ビフェゼント水和剤	20D		収穫前日まで	1回	200～700 [㍊] /10a	散布									1000倍
いちじく	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700 [㍊] /10a	散布	2000倍	2000倍			2000倍				
いちじく	園芸用キンチョールE	ベルメリンエアゾール	3A		収穫前日まで	2回以内		【c】									
果樹類	スパイカルEX	ミヤコカブリダニ剤	「-（生）」		発生初期	-		放飼									2.4～12mL/樹
果樹類(施設栽培)	スパイテックス	リカブリダニ剤	「-（生）」		発生初期	-		放飼									100～300mL/10a
【A】	ロビンフッド	フェンプロパトリンエアゾール	3A		収穫前日まで	5回以内		【d】				原液					

作物名：【A】 果樹類（かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴーを除く）

使用時期：【Z】 4～7月但し収穫7日前まで

使用方法：【a】 株元から結果母枝まで塗布

【b】 主幹及び主枝の産卵箇所薬剤が滴るまで塗布又は散布

【c】 食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射

【d】 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射

(7) キウイフルーツ

〔果樹類＞落葉果樹＞キウイフルーツ〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
花 腐 細 菌 病	休 眠 期	・樹皮や休眠芽で越冬した細菌が雨滴で蕾に飛散し、がくの裂開とともに花蕾の中へ侵入し、花では不受精や奇形果・落果を生じる。 ・開花期に、雨が多いと発生が増加する。
	生 育 期 (4 月 中 旬 ～ 下 旬)	
	〔耕種的防除〕	・強風が吹き抜ける場所での栽培を避け、防風対策を行う。 ・せん定枝は、園外に持ち出して処分する。 ・通風・採光・排水を改善し、多肥を避けて、落ち着いた樹勢で管理する。 ・開花の1か月前(3月下旬～4月中旬頃)に、主幹部を5mm幅で、環状はく皮する。
か い よ う 病	【 共 通 】	・品種によって2倍体・4倍体・6倍体に分かれるが、2倍体品種(「紅妃」等)は抵抗性が低く、6倍体品種(「ヘイワード」等)は抵抗性が高い傾向にあるので、品種選定で抵抗性(り病性)に注意する。 ・病原菌にはpsa1～5の系統があり、中でもpsa3で病徴や感染力が著しい。
	生 育 期 (4 月 中 旬 ～ 下 旬)	・罹病した枝幹部から2～4月に暗赤色の細菌液が漏出し、雨滴で飛散する。 ・気孔や傷口から菌が侵入し、葉での発病は4～6月に最盛期となる。 ・春や秋の強風雨で、広範囲に伝染する。冬季の低温で、発生が助長される。
	落 葉 期 ～ 休 眠 期	・せん定による切り口は菌が侵入しやすいので、トップジンMペーストを塗布しておく。
	〔耕種的防除〕	・強風が吹き抜ける場所での栽培を避け、防風対策を行う。 ・発病枝のせん定に用いた鋏、鋸は消毒して次の健全樹に用いる。
灰 色 か び 病	開 花 期 ～ 落 花 期	・梅雨期の多雨や過繁茂状態で、発生しやすい。 ・傷果や濡れ果は、収穫しない。
果 実 軟 腐 病	着 果 期 6 ～ 7 月 お よ び 9 ～ 1 0 月	・貯蔵中に発病した果実は、すみやかに除去する。
	〔耕種的防除〕	・冬季のせん定および夏季の徒長枝除去により、通風、採光を良好に保つ。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラムシ類	5 月 中 旬 7 月 上 旬 9 月 上 旬	・<u>休眠期防除参照</u> ・休眠期は石灰硫黄合剤またはマシン油乳剤を散布する。
カイガラムシ類 幼 虫		
カ メ ム シ 類	果 実 肥 大 期	・カメムシ類は夜間活動性なので、日暮れ前の防除が効果的である。
キイロマイコガ	果 実 肥 大 期 成 熟 期	・果実接合部やへた部等に糸を張った巣の有無で、発生状況を確認する。
	〔耕種的防除〕	・果実が重ならないよう、適正摘果に努める。

キウイフルーツ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）				
									かいよう病	果実軟腐病	花腐細菌病	灰色かび病	切り口及び傷口のゆ合促進
キウイフルーツ	ICボ [®] ルト [®] -66D	銅水和剤	M1		収穫後～発芽前	-	200～700 ^g _{10a}	散布	25～50倍				
キウイフルーツ	アグ [®] リマイシン-100	オキシテラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	25,41		落花期まで	3回以内	200～700 ^g _{10a}	散布	1000倍		1000倍		
キウイフルーツ	アグ [®] レプト水和剤	ストレプトマイシン水和剤	25		収穫90日前まで	4回以内		散布	1000倍		1000倍		
キウイフルーツ	カスミンボ [®] ルト [®] -	カスカ [®] マイシン・銅水和剤	24,M1		休眠期	4回以内	200～700 ^g _{10a}	散布	500倍		500倍		
キウイフルーツ	カスミン液剤	カスカ [®] マイシン液剤	24		収穫90日前まで	4回以内	200～700 ^g _{10a}	散布	400倍		400倍		
キウイフルーツ	ストロビ [®] -ード [®] ライフロアブ [®] ル	クレソキシムメチル水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g _{10a}	散布				2000～3000倍	
キウイフルーツ	ダ [®] ユニール1000	TPN水和剤	M5		収穫60日前まで	7回以内	200～700 ^g _{10a}	散布		500～1000倍			
キウイフルーツ	トップ [®] ジ [®] ンMペ [®] -ースト	チオファネートメチルペ [®] -ースト剤	1		【A】	3回以内		塗布					原液
キウイフルーツ	トップ [®] ジ [®] ンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	5回以内	200～700 ^g _{10a}	散布		1000倍			
キウイフルーツ	ナリアWDG	ピ [®] ラクロストロビ [®] ン・ボ [®] スカリド [®] 水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700 ^g _{10a}	散布		2000倍		2000倍	
キウイフルーツ	フロンサイト [®] SC	フルアジ [®] ナム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	200～700 ^g _{10a}	散布		2000倍		2000倍	
キウイフルーツ	ペ [®] ルクート水和剤	イミノクタジ [®] ンアルペ [®] シル酸塩水和剤	M7		収穫前日まで	5回以内	200～700 ^g _{10a}	散布		1000倍		1000倍	
キウイフルーツ	ペ [®] ンレート水和剤	ペ [®] ノミル水和剤	1		収穫7日前まで	5回以内	200～700 ^g _{10a}	散布		2000倍			
キウイフルーツ	ムッシュボ [®] ルト [®] -DF	銅水和剤	M1		-	-	200～700 ^g _{10a}	散布	1000倍				
キウイフルーツ	ロフ [®] ラール水和剤	イブ [®] ロジ [®] オン水和剤	2		開花期～落花期	4回以内	200～700 ^g _{10a}	散布				1000～1500倍	
					収穫前日まで	4回以内	200～700 ^g _{10a}			1000～1500倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

キウイフルーツ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）			
									カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カメムシ類	キイロマイカ
キウイフルーツ	アデオン乳剤	ペルメトリン乳剤	3A		収穫7日前 まで	5回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布			2000倍	2000～ 3000倍
キウイフルーツ	アプロート水和剤	プロフェジン水和剤	16		収穫前日 まで	2回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布		1000倍		
キウイフルーツ	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布			1000～ 2000倍	
キウイフルーツ	スカウトフロアブル	トラロメリン水和剤	3A	劇	収穫前日 まで	5回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布				1500～ 2000倍
キウイフルーツ	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布			1000～ 2000倍	
キウイフルーツ	ダントツ水溶剤	クロチアジン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布			2000～ 4000倍	
キウイフルーツ	ハダソンSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	収穫30日 前まで	3回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布				1500倍
キウイフルーツ	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		収穫7日前 まで	3回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布				4000倍
キウイフルーツ	マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤	3A	劇	収穫7日前 まで	2回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布				2000倍
キウイフルーツ	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリット水溶剤	4A	劇	収穫7日前 まで	3回 以内	200～700 ^g _ト /10a	散布	2000倍			

(8) モ モ

〔果樹類＞落葉果樹＞核果類＞もも類＞もも〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【 全 般 】	[耕 種 的 防 除]	・果実の病害虫被害を予防・軽減するためには、袋かけ栽培が望ましい。
黒 星 病	開 花 期 ～ 袋 か け 前	・多くの病気は花感染が原因であり、満開期防除を行うとともに、その後は袋かけまで定期的な防除に努める。 ・袋かけは、生理落果が終わったのこと確認し、満開60日後を目安に実施する。
縮 葉 病	開 花 直 前	・発病後に治療する方法はないので、必ず3月の発芽前に石灰硫黄合剤を散布する。 ・ <u>休眠期防除参照</u>
	9 ～ 1 0 月	・縮葉病の越冬菌は、樹皮に付着して冬期間は増殖しないことから、この時期にボルドー剤を散布すれば、翌年の発芽前防除に代えることができる。
せん孔細菌病	【 共 通 】	・ <u>欄外参照</u>
	果 実 肥 大 期	・暴風雨が発生した場合は、速やかに抗生物質薬剤を単剤で散布する。
	生 育 期 (9 月 以 降)	・早期落葉や夏型枝病斑の発生が見られる場合の対策は、 <u>欄外参照</u> 。
	[耕 種 的 防 除]	・冬季せん定で罹病した枝は、切除して園外で焼却または埋設処分する。 ・栽培期間中も、罹病した枝も随時、同様に処分する。
灰 星 病	開 花 直 後 ～ 成 熟 期	・収穫直前の成熟果に発生するが、収穫時に健全に見えても貯蔵中に急激に発病することも珍しくない。 ・発病果実を見つけたら、園外に持ち出して土中などで処分する。また、発病果実に触れた手で、他の果実に触れないように注意する。
	[耕 種 的 防 除]	・発病果や枯れ枝は、有力な伝染源なので除去に努める。 ・摘果後は、すみやかに袋かけを行う。
ホモブシス腐敗病	成 熟 期	・灰星病とともに果実腐敗を起こす代表的な病害である。灰星病と同様に、樹上果実や収穫後果実にも、急激に発病する。 ・晩生ほど感染期間が長く、発生が多くなりやすい。
	[耕 種 的 防 除]	・枯れ枝は、有力な伝染源なので、せん定で取り除く。 ・摘果後は、すみやかに袋かけを行う。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時・病患部削り取り直後・及び病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
うどんこ病	果 実 肥 大 期	・病原菌は、被害果実、被害落葉で越冬し、果実は5月～ 6月にかけて発病する。
果実赤点病	果 実 肥 大 期 (6 月 ～ 7 月)	・ウメシロカイガラムシの加害症状と酷似するが、吸汁痕の有無で識別する。
すすかび病	果 実 肥 大 期 (5 月 ～ 6 月)	・風通しの悪い園や袋掛けが遅れた園、冷夏・長雨が連続と発生が多い。 ・5月上旬から袋掛け前までに数回、幼果に薬剤が付着するようにいねいに散布する。
	[耕 種 的 防 除]	・収穫時期が遅くなると、発病が多くなるので、適期収穫を心がける。 ・冬季せん定で罹病した枝は、切除して園外で焼却または埋設処分する。 ・果実への感染を防ぐため、袋かけを行う。また、密植を避けて、風通しをよくする。

病虫害名	防除時期	摘 要
黒 斑 病	落 下 後 ～ 生 育 期	・この病気は、「清水白桃」に特異的に発生が多く、多発すると大きな被害を生じる。 ・風通しの悪い園や5月～梅雨期及び9月に気温が高く降雨が多いと発生が多い。 ・落花後から幼果の肥大期までの散布が重要である。
	[耕 種 的 防 除]	・「清水白桃」以外の品種へ、転換する。 ・発病樹は伐採し、発病果、発病枝は見つけしだい処分する。 ・密植、過繁茂、多窒素栽培を避ける。
白 紋 羽 病	植 付 時	・植え付け前に、根部を10分間、殺菌剤で浸漬後植え付ける。
	[耕 種 的 防 除]	・着果過多を避ける。
炭 疽 病	果 実 肥 大 期	・4～6月の果実肥大期に降雨が多いと発病が多く、樹勢の劣る樹では発病が助長される。
	[耕 種 的 防 除]	・発病しにくい「白桃」、「大久保」などの品種を植え付ける。
胴 枯 病	[耕 種 的 防 除]	・凍害、着果過多、樹勢の低下、強せん定、排水不良等によって発生が助長される。 ・胴枯病菌は凍害による傷だけでなく、様々な傷から感染するため、樹体の保護に努める。 ・せん定後は、切り口を速やかに癒合剤で塗布し、傷口を保護する。
アブラムシ類	展 葉 期 ～ 新 梢 伸 長 期	・モモでは主にモモアカアブラムシ、モモコフキアブラムシ、ウメコブアブラムシが加害し、常に軟らかな新葉部分から吸汁し、葉巻き症状を引き起こす。 ・モモの葉が硬化する5月下旬以降は別の植物へ移動し、10～11月にモモ樹に帰ってきて産卵し越冬する。
カメムシ類	果 実 肥 大 期	・モモでは主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシが加害する。 ・冬季は落葉下で越冬し、年に1～3回発生する。 ・発生予察情報に注意するとともに、自園での発生状況の把握に努める。発生が見られたら、早期に薬剤を散布する。
モモハモグリガ	果 実 肥 大 期	・幼虫が大きくなると効果が低下するため、早期発見して薬剤を散布する。
シンクイムシ類 (モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガ、ナシヒメシンクイ)	果 実 肥 大 期 ～ 成 熟 期	・モモシンクイガは、土中繭内にて幼虫の形態で越冬し、4～5月になると冬繭から脱出して蛹になり、6～8月に成虫となる。成虫は果実表面に産卵し、ふ化幼虫は果皮を食い破って果肉に侵入し、果実内を縦横に食害する。老熟後は果面に1～2mmの穴をあけて脱出し、地表面近くで夏繭をつくる。 ・モモノゴマダラノメイガは、果実のみを加害し、有袋果であっても袋の裂け目から侵入する。 ・ナシヒメシンクイの越冬世代成虫は4月下旬から発生し、新梢先端部に産卵、新梢内を食害して心折れ被害となる。6月下旬以降に産卵、ふ化した幼虫は果実に移動して食入する。 ・果実の中まで薬剤の効果は届かないので、果実への食入前に薬剤を散布する。
カイガラムシ類	休 眠 期	・ <u>休眠期防除参照</u>
	生 育 期	・モモを加害するカイガラムシは、ウメシロカイガラムシ、タマカタカイガラムシが主な種類である。いずれの種類とも、ふ化から1～2週間でカイガラを形成し、薬剤の効果が著しく低下するので、薬剤散布はふ化直後に実施する。 ・<u>5-1ウメ(4)カイガラムシ類の防除参照</u>

病害虫名	防除時期	摘 要
コスカシバ	休眠期 (落葉後～萌芽前)	・幼虫は樹皮下で越冬し、翌春も食害を続け、樹皮下で蛹化する。越冬幼虫の発育は不揃いで、成虫になる時期も揃わないため、成虫の発生期間は5～10月と幅がある。 ・あらかじめ虫糞を取り除き、樹幹部および主枝に十分散布する。 ・新芽の被害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼虫発生期	・薬剤は、虫糞が見られるところを中心に、主幹部全体に散布する。 ・生物農薬は、効果を高めるために、晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
	成虫発生初期から終期 (5月上～中旬)	・性フェロモン剤を枝に巻き付け、園内で片寄りのないように設置する。 ・効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて防風垣や防風ネットを設置する。 ・効果は1シーズン限りなので、毎年付け替える。
ハダニ類	生育期	・梅雨明け後～盛夏期に、無降雨が続くと発生しやすい。 ・高温乾燥期には園内での発生状況に注意し、必ず発生初期に防除する。 ・収穫間際や収穫期に発生することがあり、その際には薬剤ごとの収穫前日数に十分注意する。
モモサビダニ	生育期	・葉の表面全体の葉緑素が抜けて銀白色に輝いて見え、短期間で樹全体に拡大するため、早期発見に努め発生初期に防除する。
ハマキムシ類	生育期	・中齢以上の幼虫になると巻いた葉の中で生存するため、葉裏に寄生している若齢期に防除することが効果的である。
ドウガネブイブイ	果実肥大期	・薬剤散布により成虫の忌避効果が高い薬剤を使用する。
モモチョッキリゾウムシ	落花後	・成虫の捕殺に努める。
	[耕種的防除]	・発病して落下した果実や枯れ枝は有力な伝染源になるため、園外に持ち出し、焼却または処分するか、土中に深く埋める。

② せん孔細菌病の防除

本病は、果実に病斑を作り商品価値を低下させるだけでなく、早期落葉を引き起こし、果実肥大や糖度が低下する原因になる。周年的な対策が必要なので、次の各項目により総合的な対策を行う。

・防風垣、防風ネットの設置

風雨によってできた植物体表面の微細な傷口が病原菌の侵入口となるので、樹園地の周囲に防風垣や防風ネットを整備して、風当たりを和らげることが薬剤散布以前に重要である。また、新たにモモを植栽する場合は、風当たりの強い場所を避ける。

・ボルドー剤の散布

開花直前のボルドー剤散布によって、せん孔細菌病の越冬菌密度の低下をはかる。

・薬剤のローテーション散布と微生物殺菌剤の利用

薬剤耐性菌の発生を防止するため、異なる系統の薬剤を交互に使用するよう努める。また、化学農薬とは異なる作用機構である微生物殺菌剤により効果的に細菌病害の発生を抑えるため、袋かけまでは防除の際に微生物殺菌剤を混用する。

・果実の袋かけ

5月以降、葉に病斑が見られる園地では、果実の袋かけを行う。袋かけ直前に本冊子に記載した薬剤を散布し、病原菌の果実袋内への包み込みを防止する。

・夏型枝病斑への対応

夏場になって新梢に発生する「夏型枝病斑(サマーキャンカー)」は二次伝染源になるので、見つけ次第切除して、園外へ持ち出して処分する。

・抗生物質薬剤の散布

暴風雨や降雹があった場合には、天候回復後すみやかに抗生物質薬剤を散布する。また、生育期には定期的に薬剤を散布して、発生抑制をはかる。

モモ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）				
									うどんこ病	すすかび病	せん孔細菌病	柿ボシ腐敗病	果実赤点病	灰星病	黒斑病	黒星病	縮葉病（休眠期）	切り口及び傷口の癒合促進	白紋羽病	炭疽病			
もも	ICボルドー412	銅水和剤	M1		-	-	200～700g/10a	散布			30～50倍						30倍						
もも	イカフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		発病前～発病初期	-	200～700g/10a	散布									500倍						
もも	オルフィンブラスフロアブル	テブコナゾール・フルボキサム水和剤	"「-」(I*),3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	3000倍														
もも	サルファージル	水和硫黄剤	"UN(I*)		発病前～発病初期	-		散布									400～500倍						
もも	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		収穫21日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	600倍					600倍			600倍						
もも	スコア顆粒水和剤	ジフェノコゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布							2000倍		2000倍						
もも	スターナ水和剤	オキリニック酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			1000倍												
もも	ストロピートライフロアブル	クレキシムメチル水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布							2000倍		2000倍	2000倍					
もも	チオロックフロアブル	チウラム水和剤	M3		収穫7日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布			500倍				500倍		500倍						
もも	デランフロアブル	ジチアノ水和剤	M9	劇	収穫7日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布			600～1000倍				600倍		600～1000倍						
もも	トップジンMベスト	チオファネートメチルベスト剤	1		【A】	3回以内		塗布											原液				
もも	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	6回以内	200～700g/10a	散布				1000～1500倍			1000～1500倍		1000～1500倍						
もも (苗木)	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		植付前	1回	-	10分間 根部浸漬												500倍			
もも	トリミク水和剤	トリアルミゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1500～2000倍						1000～1500倍		1000～1500倍						
もも	トレロックフロアブル	チウラム水和剤	M3		収穫7日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布			500倍				500倍		500倍	500倍					

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									うどんこ病	すすかび病	せん孔細菌病	ホトシ腐敗病	果実赤点病	灰星病	黒斑病	黒星病	縮葉病（休眠期）	切り口及び傷口の癒合促進	白紋羽病
もも	ナリアWDG	ピラクトロビン・ホスカリド水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布			2000倍		2000倍		2000倍			2000倍	
もも	バリダシ液剤5	バリダマイシン液剤	U18		収穫7日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布			500倍								
もも	フルツセイバー	ベンチオレート水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布							1500～2000倍				
もも	ベルクトプロアル	イミダクジナルベンシ酸塩水和剤	M7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布				1000～2000倍			1000～2000倍				
もも	マイコシールド	ホキシトライクリン水和剤	41		収穫21日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布			1500～3000倍								
もも	マスタビース水和剤	シュートモスロデオ水和剤	「（生）」		収穫前日まで	-	200～700g/10a	散布			1000～2000倍								
もも	ムッシュボルト-DF	銅水和剤	M1		開花前まで	-	200～700g/10a	散布			500倍					500倍			
もも	ロブール水和剤	イプロンオン水和剤	2		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布				1000倍		1000～1500倍					

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

モモ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）				
									アブラムシ類	ウメシロカイラムシ	カイラムシ類	カイラムシ類幼虫	カメジ類	コスシハ	シクイムシ類	ナシトメジクイ	ハダニ類	ハマキムシ類	モシツクイガ	モハモリガ	
もも	アデント水和剤	アクリトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200～700 [㍖] /10a	散布	1000倍					1000倍							1000倍
もも	アグロスリン水和剤	シメルメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	5回以内	200～700 [㍖] /10a	散布	1000～2000倍					1000～2000倍							1000～2000倍
もも	アプロードフロアブル	アプロフェン水和剤	16		収穫14日前まで	3回以内	200～700 [㍖] /10a	散布				1000倍									
もも	オリオン水和剤40	アニコルP水和剤	1A	劇	収穫14日前まで	2回以内	200～700 [㍖] /10a	散布	1000倍		1000倍				1000倍						1000倍
もも	ガットキラ-乳剤	MEP乳剤	1B		【A】	1回		【Z】								50～100倍					
もも	カネイトフロアブル	アセキシル水和剤	20B		収穫7日前まで	1回	200～700 [㍖] /10a	散布													
もも	コテツフロアブル	クロルフェニル水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍖] /10a	散布		2000倍								1000～1500倍			2000倍
もも	コルト顆粒水和剤	ピリフルキゾン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200～700 [㍖] /10a	散布	4000倍		2000～3000倍										
もも	サムコルフロアブル10	クロラントラニリブロール水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍖] /10a	散布								5000倍					5000倍
もも	スカウトフロアブル	トラメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	5回以内	200～700 [㍖] /10a	散布	2000倍							2000～3000倍					2000～3000倍
もも	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		収穫3日前まで	6回以内	200～700 [㍖] /10a	散布	1000～2000倍					1000倍			1000倍		1000倍		1000～2000倍
もも	ダニサバフロアブル	シフルトフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍖] /10a	散布										1000～2000倍			
もも	ダントツ水溶剤	クロチフェン水溶剤	4A		収穫7日前まで	3回以内	200～700 [㍖] /10a	散布	2000～4000倍					2000～4000倍		2000～4000倍					2000～4000倍
もも	ハチハチフロアブル	トルフェンピラト水和剤	"21A(1*)	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 [㍖] /10a	散布	2000倍							1000～2000倍					2000倍

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）						
									アブラムシ類	ウメシロカイガラムシ	カイガラムシ類	カイガラムシ類	カメムシ類	コスカバ	シクイムシ類	ナシヒメジクイ	ハダニ類	ハマキムシ類	モモシツクガイ	モモハモグリガ			
もも	フェニックスプロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		開花期まで	1回	5～200 ^g / _{10a}	【Z】							200～500倍								
					収穫前日まで	2回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布							4000倍	4000倍							4000倍
もも	マイトコネプロアブル	ヒメフェナゼート水和剤	20D		収穫前日まで	1回	200～700 ^g / _{10a}	散布										1000～1500倍					
もも	マブリック水和剤20	フルバリネット水和剤	3A	劇	収穫21日前まで	2回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	2000～4000倍							2000倍		2000倍					2000倍
もも	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		収穫7日前まで	5回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	1000～3000倍		1000～2000倍						1000～2000倍	1000～3000倍		1000倍			
もも	モスレタ顆粒水溶剤	アセタミプロリト水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	2000～4000倍		2000倍				2000～4000倍	2000～4000倍							2000～4000倍
もも	モベントプロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		収穫7日前まで	3回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	2000倍		2000倍							2000倍					
もも	ロデイ乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	収穫前日まで	5回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	1000～2000倍						1000～2000倍	1000～2000倍							1000～2000倍
果樹類	バイオセフ	スタイクネカボカブサイ剤	「(生)」		幼虫発生期	-	25 ^g	【Y】							2500万頭(約10g)								
果樹類	スカバコンL	シアンセルア剤	「(7E)」		【B】		40～100本/ _{10a}	【X】							40～100本/ _{10a}								

使用時期：【A】休眠期(落葉後～萌芽前)、【B】成虫発生初期から終期

使用方法：【Z】樹幹部及び主枝に散布

【Y】虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布

【X】デイスパーを対象作物の枝に巻き付け設置

(9) スモモ

〔果樹類＞落葉果樹＞核果類＞小粒核果類＞すもも〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病 害 全 般】	[耕種的防除]	・果実の病害虫被害を予防・軽減するために、袋かけ栽培が望ましい。
灰 星 病	開 花 期 および 果実肥大終期	・花では、花弁やガクが腐敗して褐変する。成熟期の果実で発病すると褐色に軟腐し、果実全体が灰色の胞子で覆われる。 ・雨が多いと発生が増加する。 ・花腐れを防ぐには、開花直前と満開直後に薬剤を散布する。 ・果実に少しでも発生すると、急激に二次感染が進むので、収穫の1か月前～収穫直前に薬剤を散布する。
ふくろみ病	休 眠 期 ～ 開 花 直 前	・開花終了後まもなく果実が異常生育し、豆さや状に肥大する。 ・「ソルダム」系品種は発病しやすいので、対策が必須である。 ・発生に気付いた時点で手遅れなので、必ず休眠期や発芽前に薬剤を散布する。 ・ <u>休眠期防除参照</u> 。
環 紋 葉 枯 病	生 育 期	・収穫期～梅雨明けの期間が低温多雨で推移すると、谷合などで発生しやすい。 ・発生初期に防除する。
黒 斑 病 か い よ う 病	[耕種的防除]	・スモモに発生する細菌病として、黒斑病(モモのせん孔細菌病と同一の細菌)やかいよう病がある。 ・枝や果実表面のキズを防ぐため、防風垣や防風ネットを設置する。
	休 眠 期	・ボルドー剤を散布する。
	生 育 期	・袋かけが終了するまでの防除には、毎回、生物殺菌剤を混用し、感染予防に努める。ただし、抗生物質薬剤は生物殺菌剤の生菌を死滅させるため、生物殺菌剤と抗生物質薬剤は混用しない。 ・暴風雨が発生した場合は、速やかに抗生物質薬剤を単剤で散布する。
切り口および傷口 の ゆ 合 促 進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直 後、及 び 病 枝 切 除 後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
アブラムシ類	展 葉 期 ～ 新 梢 伸 長 期	・モモアカアブラムシ、モモコフキアブラムシ等が加害する。 ・常に軟らかな新葉部分から吸汁し、葉巻き症状を引き起こす。 ・スモモの葉が硬化する5月下旬以降は別の植物へ移動し、10～11月にスモモ樹に帰ってきて産卵し越冬する。
コスカシバ	休 眠 期 (開花期まで)	・幼虫は樹皮下で越冬し、翌春も食害を続け、樹皮下で蛹化する。越冬幼虫の発育は不揃いで、成虫になる時期も揃わないため、成虫の発生期間は5～10月と幅がある。 ・あらかじめ虫糞を取り除き、樹幹部および主枝に薬剤を散布する。 ・新芽の薬害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼虫発生期	・主幹や主枝、特に虫糞が見られるところを中心に薬剤を散布する。 ・生物農薬は、効果を高めるために晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
	成虫発生初期 (5月上～中旬)	・この時期は、成虫の交尾阻害により密度低下をはかる性フェロモン剤を用いる。効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて、防風垣や防風ネットを設置する。効果は1シーズン限りなので、毎年付け替える。

病害虫名	防除時期	摘 要
カメムシ類	果実肥大期	・これらの害虫は発生が見られたら、すみやかに薬剤を散布する。
ケムシ類 (イラガ)	生育期	
ハマキムシ類	生育期	
シンクイムシ類	果実肥大期 ～成熟期	・果実への食入が始まる前に、薬剤を散布する。
カイガラムシ類	(共 通)	・スモモを吸汁加害するカイガラムシ類として、ウメシロカイガラムシやナシマルカイガラムシがある。
カイガラムシ 類 幼 虫	休眠期	・ <u>休眠期防除参照</u>
	生育期	・カイガラを形成すると薬剤の効果が著しく低下するので、幼虫のふ化を確認して、ふ化最盛期に薬剤を散布する。
ハダニ類	生育期	・梅雨明け後～盛夏期に、無降雨が続くと発生しやすい。 ・手遅れにならないよう、発生初期に防除する。 ・収穫期と重なることがあるので、収穫前日数に注意する。
スモモミハハチ	開花期～ 落弁期	・成虫は開花期のがくに産卵し、幼虫は落弁直後に幼果に食入するため、満開期から落弁期に薬剤を散布する。

スモモ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									かいよう病	ふくろみ病	灰星病	環紋葉枯病	黒斑病	切り口及び傷口の癒合促進
すもも	ICボ [®] ルト [®] -412	銅水和剤	M1		-	-	200～700 ^g /10a	散布					30倍	
すもも	アミスター10フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布			1000倍			
すもも	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	2回以内	200～700 ^g /10a	散布			2000～3000倍			
すもも	スターナ水和剤	オキソリニック酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布					1000倍	
すもも	ストロビート [®] ライフロアブル	クレキシメチル水和剤	11		収穫7日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布				2000倍		
すもも	チオロックフロアブル	チウラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布		500倍				
すもも	トリフミン水和剤	トリフルミン [®] 水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布			1000倍			
すもも	トレノックスフロアブル	チウラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布		500倍				
すもも	ナリアWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド [®] 水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700 ^g /10a	散布		2000倍	2000倍			
すもも	バリダシン液剤5	バリダマイシン液剤	U18		収穫3日前まで	4回以内	200～700 ^g /10a	散布					500倍	
すもも	ヘルクートフロアブル	イミノクタン [®] ナール [®] シル酸塩水和剤	M7		収穫3日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布			2000倍			
すもも	マイコシールド [®]	オキシテラサイクリン水和剤	41		収穫21日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布					2000倍	
すもも	ムッシュボ [®] ルト [®] -DF	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200～700 ^g /10a	散布		500倍			500倍	
すもも	ロブ [®] ラール水和剤	イプロジオン水和剤	2		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布			1000～1500倍			
小粒核果類	トップジンM [®] ースト	チオファネートメチル [®] ースト剤	1		【A】	3回以内		塗布						原液
小粒核果類	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫21日前まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布			1000～1500倍	1000～1500倍		
小粒核果類	フルーツセイバー	ベンチオ [®] ラト [®] 水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布			1500倍	1500倍		
小粒核果類	マスス [®] ビス水和剤	シュート [®] モナス [®] ロ [®] シア水和剤	「-（生）」		収穫前日まで	-	200～700 ^g /10a	散布	1000～2000倍					
小粒核果類（うめを除く）	オルフィン [®] ラスフロアブル	テブコナゾール [®] フルオ [®] ビ [®] ラム水和剤	"「-」（I*）,3		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^g /10a	散布			3000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

スモモ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									アブラムシ類	ウメシロカイガラムシ	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カメムシ類	ケムシ類	コスカシバ	シツクイムシ類	ハダニ類	ハマキムシ類	スモミハバチ
すもも	アブロードフロアブル	アブロードフェジン水和剤	16		収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布				1000倍							
すもも	ガットキラ-乳剤	MEP乳剤	1B		【A】	1回		【Z】						100倍					
すもも	カネマイトフロアブル	アセキノシル水和剤	20B		収穫3日前まで	1回	200～700g/10a	散布								1000～1500倍			
すもも	サムコルフロアブル10	クロラントリニプロール水和剤	28		収穫3日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布					2500～5000倍		2500倍		2500～5000倍		
すもも	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～3000倍							2000倍			
すもも	ダントツ水溶剤	クロチアメジン水溶剤	4A		収穫3日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍				2000～4000倍						
すもも	ハチハチフロアブル	トルフェンビラド水和剤	"21A(I*)	劇	収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000倍										
すもも	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		開花期まで	1回	5～200g/10a	【Z】						200倍					
					収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布				4000倍	4000倍	4000倍		4000倍			
すもも	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍		2000倍					2000～4000倍			2000～4000倍
すもも	ロディール水和剤	フェンプロパトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布								2000倍			
果樹類	バイオセーフ	スタイナネカボカブサエ剤	「-(生)」		幼虫発生期	-	25g	【X】						2500万頭(約10g)					
果樹類	スカンパコンL	シナンセロア剤			【B】		40～100本/10a	【Y】						8g/100本 製剤					
小粒核果類	アデントフロアブル	アクリナトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布								2000倍	2000倍		
小粒核果類	アデント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布									1000倍		
小粒核果類	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布		2000倍				イラガ類 2000倍			オオカバダニ 2000倍		
小粒核果類	コルト顆粒水和剤	ピリフルキサゾン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍		2000倍								
小粒核果類	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	23		収穫前日まで	1回	200～700g/10a	散布									2000倍		
小粒核果類	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布									1000～2000倍		
小粒核果類	マイトコーネフロアブル	ピフェナゼート水和剤	20D		収穫3日前まで	1回	200～700g/10a	散布									1000～1500倍		

使用時期：【A】休眠期(落葉後～萌芽前)、【B】成虫発生初期から終期

使用方法：【Z】樹幹部及び主枝に散布

【Y】ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置

【X】虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布

(10) リンゴ

〔果樹類＞落葉果樹＞仁果類＞りんご〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害全般】	〔耕種的防除〕	・発病部位(主に葉・枝・果実)は発見次第すみやかに除去し、園外で焼却か土中深く埋める。 ・落葉やせん定によって切り取った枝も、園外で粉碎・焼却または土中深く埋める。
黒 星 病	開 花 前 ～ 幼 果 期	・一次伝染の防止が重要なので、開花期前後の薬剤散布に重点を置く。
	果 実 肥 大 期	・銅水和剤を使用する場合は、サビ果防止のため炭酸カルシウム剤を混用する。
	収 穫 後	・ <u>休眠期防除参照</u>
斑 点 落 葉 病	落 花 期	・フロンサイドSCの前後にボルドー剤を散布する場合は、7日以上の間隔をあける。
	収 穫 前	・収穫までの日数を考慮して、使用時期「前日まで」等、日数が短い薬剤を使用する。
	収 穫 後	・この時期は、主に有機銅剤を用いる。
褐 斑 病	梅 雨 明 け 前 後	・低温多雨の年に発生が多くなり、早期落葉につながる。
す す 斑 病 す す 点 病	5 月 中 旬 ～ 9 月 下 旬	・夏に降雨の多い年に、発生が多い。 ・有袋栽培で発生が多いので、袋かけ前に防除する。
赤 星 病	4 月 下 旬 ～ 5 月 中 旬	・多発園では、初発期とさらにその1週間後に散布する。
	〔耕種的防除〕	・中間宿主であるビャクシン類を周辺(1km程度)から取り除く。
輪 紋 病 (いぼ皮病)	6 月 中 旬 ～ 8 月 上 旬	・高温多雨条件が続くと、感染頻度が高くなる。
腐 ら ん 病	剪定時及び病 患 部 削 り 取 り 直 後	・トップジンMペーストまたはバッチレートを原液のまま使用する。 ・せん定時には、せん定直後の切り口に塗布する。 ・病斑を見つけた場合は、すみやかに病患部を大きめに削り取り、傷あと及びその周辺に十分塗布する。 ・<u>休眠期防除参照</u>
切り口および 傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り取り直 後、及び 病枝切除後	・せん定直後の切り口に、トップジンMペーストまたはバッチレートを塗布する。
アブラムシ類	5 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬	・展葉初期の防除を徹底する。
カイガラムシ 類	【 共 通 】	・ <u>休眠期防除参照</u>
	幼 虫 ふ 化 直 後	・5月上～中旬、7月上～中旬頃の幼虫ふ化期から若齢幼虫期に薬剤を散布する。
	〔耕種的防除〕	・9月下旬までに主枝や垂主枝にコモ等を巻き付けて、バンド誘殺を行う。

病害虫名	防除時期	摘 要
コナカイガラ ムシ類 クワコナカイガラ ムシ(若齢幼虫)	幼 虫 ふ 化 直 後	・5月上～中旬、7月上～中旬頃の幼虫ふ化期から若齢幼虫期に防除する。 ・ 休眠期防除参照
カメムシ類	6 月 中 旬 ～ 9 月 下 旬	・成虫が山林から果樹園に飛来し、幼果期から収穫期まで加害する。 ・落果に注意しながら樹を揺すって、成虫の有無を確認する。
ハマキムシ類	展 葉 期	・発生状況を見ながら、ふ化幼虫の最盛期に防除する。
	果 実 肥 大 期	・果実肥大期間中は、ふ化幼虫最盛期に防除する。
	[耕種的防除]	・葉と果実の接触部分に生息しやすいので、葉摘みを行う。
ハダニ類 (リンゴハダニ) (ナミハダニ)	6 月 下 旬 ～ 9 月 上 旬	・ハダニ類は、短期間で増加し、増加すると防除困難になるので、発生初期にかけ残し のないように丁寧に散布する。 ・高温・乾燥が続くと発生しやすいので、注意する。 ・ 休眠期防除参照
シンクイムシ類	6 月 下 旬 ～ 9 月 上 旬	・リンゴを加害するシンクイムシ類として、モモシンクイガおよびナシヒメシンクイがある。 ・世代間の重なりが大きく、連続的に発生するので、継続的な防除対策が必要である。ま た、果実への食入前に防除する。
キンモンホソガ	幼 果 期	・食入虫の防除よりも食入防止に重点を置き、成虫発生期から産卵期にかけての散布が効 果的である。
	果 実 肥 大 期	・7月下旬から8月上旬の第3世代の卵および無脚幼虫期に散布する。
	[耕種的防除]	・冬期に落葉を焼却するか、または土中に埋める。
ギンモン ハモグリガ	4 月 ～ 9 月	・老熟幼虫がぶら下がるのを確認し、その10日～2週間後に卵期を迎えるので、その時 期に薬剤を散布する。
カミキリムシ類	6 ～ 7 月	・産卵初期～産卵最盛期直前に、処理する。 ・主幹地際部から約50cmの高さまで塗布または散布する。 ・薬液が果実や葉に付着しないように、注意して散布する。

リンゴ【殺菌剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									すす点病	すす斑病	褐斑病	黒星病	傷口のゆ 合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病	腐らん病	輪紋病	銅水和剤 による薬 害軽減
りんご	ICボルドー412	銅水和剤	M1	-	-	-	200～700 ^{g/L} /10a	散布			30～50倍	30～50倍				20～50倍		20～40倍	
りんご	アグサーフロアブル	ジフェノコザール・フルキサント水和剤	3,7		収穫14日前まで	3回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布			2000倍	2000倍		2000倍		2000倍			
りんご	アリエティック水和剤	キャプタン・ホセチル水和剤	M4,P7		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布	800倍	800倍	800倍	800倍				800倍		800倍	
りんご	アントラコール顆粒水和剤	ブロードネツ水和剤	M3		収穫45日前まで	4回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布	500倍	500倍	500倍	500倍				500倍		500倍	
りんご	インダーフロアブル	フェンプロコザール水和剤	3		収穫14日前まで	3回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布	10000倍	10000倍	10000倍	5000～ 12000倍		8000～ 12000倍					
りんご	オキシインク水和剤	オクスボコザール フマル酸塩水和剤	3		収穫7日前まで	5回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布	3000倍	3000倍		3000～ 4000倍		3000～ 4000倍		2000～ 3000倍			
りんご	オゾンサイト水和剤80	キャプタン水和剤	M4		収穫前日まで	6回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布	600～ 800倍	600～ 800倍	600～ 800倍	600～ 1000倍				600～ 800倍		600～ 800倍	
りんご	オキザンク水和剤	キャプタン・有機銅水和剤	M1,M4		収穫14日前まで	4回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布	500～ 600倍	500～ 600倍	500～ 600倍	500～ 800倍				500～ 800倍		500～ 800倍	
りんご	オルフィンプラスフロアブル	デブコザール・フルベラム水和剤	"「-」 (I*),3		収穫7日前まで	3回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布	2000倍	2000倍	2000倍	2000～ 3000倍		2000～ 3000倍		2000～ 3000倍			
りんご	キノドー水和剤40	有機銅水和剤	M1		収穫14日前まで	4回以内	200～700 ^{g/L} /10a	散布				500～ 800倍				500～ 800倍			
りんご	キノドー水和剤80								1200倍	1200倍	1200倍	1200～ 1600倍				1200倍			
りんご	キノドー顆粒水和剤								1000倍	1000倍	1000倍	1000倍				1000倍			
りんご	コサイト 3000	銅水和剤	M1	-	-	-	200～700 ^{g/L} /10a	散布	2000倍	2000倍	2000倍					2000倍		2000倍	

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）			
									すす点病	すす斑病	褐斑病	黒星病	傷口のゆ 合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病	腐らん病	輪紋病	銅水和剤 による薬 害軽減			
りんご	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		収穫30日 前まで	3回 以内	200～700g /10a	散布	500～ 600倍	500～ 600倍	500～ 600倍	500～ 600倍		500～ 600倍		500～ 600倍		500～ 600倍		500～ 600倍		
りんご	スクレアフロアブル	マンデストロピ ン水和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布				2000～ 3000倍		2000～ 3000倍				2000～ 3000倍				
りんご	スコア顆粒水和剤	ジフェノコゾール 水和剤	3		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700g /10a	散布			2000～ 3000倍	3000～ 4000倍		3000～ 4000倍			3000倍					
りんご	ストロベードライフロアブル	クレキシムメチル水 和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	3000倍		1500～ 3000倍		1500～ 3000倍		2000～ 3000倍				
りんご	セルカデイスDフロアブル	ジチアゾン・フルキサ ビロキサト水和 剤	7,M9	劇	収穫60日 前まで	3回 以内	200～700g /10a	散布			1000～ 1500倍	1000～ 1500倍		1000～ 1500倍		1000～ 1500倍				1000～ 1500倍		
りんご	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		収穫45日 前まで	3回 以内	200～700g /10a	散布				1000倍				1000倍						
りんご	チオソックフロアブル	チウラム水和剤	M3		収穫30日 前まで	5回 以内	200～700g /10a	散布	500倍	500倍	500倍	500倍		500倍			500倍		500倍			
りんご	デランフロアブル	ジチアゾン水和剤	M9	劇	収穫60日 前まで	3回 以内	200～700g /10a	散布			1000～ 2000倍	1000～ 2000倍				1000～ 2000倍		1000～ 2000倍		1000～ 2000倍		
りんご	ドクリンフロアブル	有機銅水和剤	M1		収穫14日 前まで	4回 以内	200～700g /10a	散布	800～ 1000倍	800～ 1000倍	800～ 1000倍	800～ 1000倍				800～ 1000倍		800～ 1000倍		800～ 1000倍		

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									すす点病	すす斑病	褐斑病	黒星病	傷口のゆ 合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病	腐らん病	輪紋病	銅水和剤 による薬 害軽減
りんご	トップジンMペ-スト	チオファネートメチル ペ-スト剤	1		【A】	3回 以内		塗布											
					【B】									原液					
りんご	トップジンM水和剤	チオファネートメチル 水和剤	1		収穫前日 まで	6回 以内	200～700 ^g /10a	散布	1000～ 1500倍	1000～ 2000倍	1000～ 2000倍	1000～ 2000倍				1000～ 1500倍	1000～ 1500倍		
りんご	トリフミシ水和剤	トリフルミゾ-ル水 和剤	3		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布				2000～ 3000倍		2000～ 3000倍		2000～ 3000倍			
りんご	トレノックスフロアブル	チクラム水和剤	M3		収穫30日 前まで	5回 以内	200～700 ^g /10a	散布	500倍	500倍	500倍	500倍		500倍		500倍			
りんご	ナリアWDG	ピラクロストロビ ン・ボスカリド水 和剤	11,7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍				2000倍	2000倍		
りんご	ネクスターフロアブル	イピラザラム水 和剤	7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布				1500～ 3000倍		1500倍					
りんご	パッチレート	有機銅塗布剤	M1		【A】	3回 以内		【Z】					原液			原液			
りんご	パレード1570フロアブル	ピラジフルミド 水和剤	7		収穫前日 まで	2回 以内	200～700 ^g /10a	散布	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍		2000倍		2000～ 3000倍		2000～ 3000倍	
りんご	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリパ-ンカルブ 水和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布	3000～ 4000倍	3000～ 4000倍	3000～ 4000倍	3000～ 4000倍				3000～ 4000倍		3000～ 4000倍	
りんご	フルゼイパー	ベンチオピラト 水和剤	7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布	1500～ 3000倍	1500～ 3000倍	1500～ 2000倍	1500～ 3000倍		1500～ 3000倍		1500～ 2000倍			
りんご	フロンサイトSC	フルアジラム水和 剤	29		収穫45日 前まで	1回	200～700 ^g /10a	散布	2000～ 2500倍	2000～ 2500倍	2000～ 2500倍	2000～ 2500倍				2000～ 2500倍		2000倍	

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）									適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）			
									すす点病	すす斑病	褐斑病	黒星病	傷口のゆ 合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病	腐らん病	輪紋病	銅水和剤 による薬 害軽減		
りんご	ベルクト707アル	イミダジンアル ベシ酸塩水和 剤	M7		収穫前日 まで	6回 以内 (但し、 開花期以 降散布は 3回 以内)	200～700g /10a	散布	1000～ 1500倍	1000～ 1500倍	1000～ 1500倍	1000～ 1500倍				1000～ 1500倍	1000～ 1500倍				
				1000倍					1000倍	1000倍	1000～ 2000倍				1000～ 2000倍	1000倍					
りんご	ベント水水和剤	ベミル水水和剤	1		収穫前日 まで	4回 以内	200～700g /10a	散布	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍				2000～ 3000倍	2000～ 3000倍				
りんご	ユニックス顆粒水水和剤47	ジプロジニル水 和剤	9		収穫14日 前まで	4回 以内	200～700g /10a	散布		2000倍	1000～ 2000倍					1000～ 2000倍					
りんご	クレファン	炭酸カルシウム水 和剤	その他			-		【Y】										80～ 100倍			

使用時期：【A】剪定時及び病患部削り取り直後、

【B】剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

使用方法：【Z】剪定枝の切口、病患部の削除あとに塗布、【Y】銅水和剤に混用して散布

リンゴ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）				
									アブミシ類	カイミシ類	カミキリミシ類	カメミシ類	ギモンハモグリガ	キモンボガ	クコカイガラミシ	コカイガラミシ類	シクイミシ類	ナミダニ	ハダニ類	ハマミシ類	リンゴハダニ
りんご	アデント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	1000倍					1000倍			1000倍				
りんご	アクタ顆粒水溶剤	フメトキダム水溶剤	4A		収穫7日前まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	2000～3000倍			2000倍	2000～3000倍	2000～3000倍		2000～3000倍	2000倍				
りんご	アグロスリン水和剤	シベルメリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	1000～2000倍				1000～2000倍	1000～2000倍			1000～2000倍		1000倍		
りんご	アブロードフロアブル	アブロードエジン水和剤	16		収穫30日前まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布		1000～1500倍	←幼虫										
りんご	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフリン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	2000倍			2000倍	2000倍	2000倍		2000倍	2000倍				
りんご	オリオン水和剤40	アラカルブ水和剤	1A	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	1000倍	1000倍			1000倍	1000倍			1000倍		1000倍		
りんご	カスケード乳剤	フルエノスロン乳剤	15		収穫14日前まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布					2000～4000倍	2000～4000倍				2000倍	2000～6000倍		2000倍
りんご	ガットサイトS	MEP乳剤	1B		【A】	3回以内	-	【Z】			1(原液)～1.5倍										
							100～1000mL/樹	【Y】			1.5倍										
りんご	カネイトフロアブル	アセキシル水和剤	20B		収穫7日前まで	1回	200～700 ^{1/2} g/10a	散布										1000～1500倍		1000～1500倍	
りんご	キラップフロアブル	エチアロール水和剤	2B		収穫14日前まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	1000～4000倍			2000倍	1000～2000倍	1000～2000倍							
りんご	コル顆粒水和剤	ピリフルキアリン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	3000～6000倍	3000～4000倍											
りんご	コロマト水和剤	シバメグチン水和剤	6		収穫前日まで	1回	400～700 ^{1/2} g/10a	散布										2000倍			
りんご	サムコルフロアブル10	クロソトラニリブロール水和剤	28		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布					2500～5000倍	2500～5000倍			2500～5000倍		2500～5000倍		
りんご	サンイト水和剤	ピリダベンソン水和剤	21A	劇	収穫21日前まで	1回	200～700 ^{1/2} g/10a	散布										1000～1500倍		1000～3000倍	
りんご	スカイトフロアブル	トロメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	5回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	1500～2000倍			1500～2000倍	1500～2000倍	2000倍			2000倍		2000倍		
りんご	スターカル顆粒水溶剤	ジノテフリン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	2000倍			2000倍	2000倍	2000倍		2000倍	2000倍				

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）									
									アブラムシ類	カイガラムシ類	かきりし類	かめし類	ギモンハモグリガ	キンモノボカ	クワコカイガラムシ	コナカイガラムシ類	シクイシ類	ナミハダニ	ハダニ類	ハマキムシ類	リンゴハダニ	アブラムシ類	カイガラムシ類	かきりし類	かめし類	ギモンハモグリガ	キンモノボカ	クワコカイガラムシ
りんご	スミチオン水和剤40	MEP水和剤	1B		収穫30日前まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	800～1200倍				800～1000倍	800～1000倍							800～1200倍					800～1200倍		
りんご	ダニコングフロアブル	ピフルミド水和剤	25B		収穫前日まで	1回	200～700 ^{1/2} g/10a	散布															2000倍					
りんご	ダニガラフロアブル	シルメトフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布																1000倍				
りんご	ダニトロフロアブル	フェンピロキシメート水和剤	21A		収穫30日前まで	1回	200～700 ^{1/2} g/10a	散布																			1000～2000倍	
りんご	ダントツ水溶剤	クワアジン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	2000～4000倍					2000～4000倍	2000～4000倍													
りんご	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布						5000～15000倍	5000～15000倍											5000～15000倍		
りんご	トラサスホームフロアブル	スルホキサフロル水和剤	4C		収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	2000～4000倍	1000～2000倍																		
りんご	ニツラン水和剤	ヘキサチアグス水和剤	10A		収穫7日前まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布																			2000～3000倍	
りんご	バリアード顆粒水和剤	チクロプロリド水和剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	4000倍				2000倍	4000倍	4000倍													
りんご	バロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		収穫14日前まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布																			2000～3000倍	
りんご	ピラニカ水和剤	デブフェビラド水和剤	"21A(1*)	劇	収穫14日前まで	1回	200～700 ^{1/2} g/10a	散布																1000～2000倍				
りんご	フェニックスフロアブル	フルバゾジアミド水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布						4000～6000倍	4000～6000倍												4000～6000倍	
りんご	フェニックス顆粒水和剤												4000倍	4000倍				4000倍	4000倍									
りんご	マイコネフロアブル	ピフェザート水和剤	20D		収穫前日まで	1回	200～700 ^{1/2} g/10a	散布																			1000倍	
りんご	マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤	3A	劇	収穫30日前まで	2回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	2000倍					2000倍	2000倍											2000倍	2000倍	
りんご	モスラン顆粒水溶剤	アセミプロリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700 ^{1/2} g/10a	散布	2000～4000倍	4000倍			2000～4000倍	2000～4000倍	2000～4000倍												2000～4000倍	
りんご	ロベソフット	フェンプロパトリンエアブル	3A		収穫前日まで	5回以内		【X】																				

使用時期：【A】 6～7月（産卵初期～産卵最盛期直前）但し収穫30日前まで
使用方法：【Z】 主幹地際部から約50cmの高さまで塗布、【Y】 主幹地際部から約50cmの高さまで散布、
【X】 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射

(11) ク リ

〔 果樹類＞落葉果樹＞くり 〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害共通】	[耕種的防除]	・空のイガ、発病した毬果、落葉、発病枝、せん定枝は、感染源となるため、可能な限りすみやかに回収して、園外で焼却または地中に埋設する。
胴 枯 病	病 患 部 削 り 取 り 直 後	・病斑を見つけ次第、病患部を大きめに完全に削り取り、傷あとおよびその周辺にトップジンMペーストを十分塗布する。
	[耕種的防除]	・枝幹害虫の被害跡や凍害による枯死部から病原菌の繁殖が始まるので、害虫防除や凍害対策を行う。
実 炭 疽 病	果 実 肥 大 期	・薬剤による防除適期は、毬果肥大期～成熟期(7月中旬～8月下旬)である。 ・10日間隔で2～3回、イガに薬剤が十分かかるように散布する。
	[耕種的防除]	・極早生品種および晩生品種は発生が少ないので、品種構成を考慮する。
切り口及び傷口 の ゆ 合 促 進	剪定整枝時、病患部 削り取り直後、及び 病 枝 切 除 後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
【害虫共通】	[耕種的防除]	・空のイガ・食害された毬果・落葉は、生育や越冬の場所となるため、可能な限りすみやかに回収して、園外で焼却または地中に埋設する。
ク ス サ ン	[耕種的防除]	・休眠期に卵塊を集めて焼却する。 ・生育期は早期発見に努め、若齢幼虫期に捕殺する。
カミキリムシ類	6 月 下 旬 ～ 8 月 上 旬	・薬剤は樹幹部に十分量散布する。
	[耕種的防除]	・成虫は見つけ次第捕殺する。幼虫は食入痕に針金を差し込み、刺殺する。
コウモリガ	4 ～ 6 月	・登録薬剤を地際部から約1.5m～2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布または散布する。
クリタマバチ	発 芽 直 前	・越冬幼虫を対象に、登録薬剤を休眠期に樹冠全体を散布する。
	成 虫 活 動 期 (7月上旬～中 旬)	・成虫が虫こぶから脱出して野外を活動する時期以外は薬剤の効果が低い。 ・羽化脱出期(特に羽化初期)を見計らって薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・新梢の伸びが少ないとクリタマバチが寄生しやすくなるので、やや強めのせん定や適切な施肥によって樹勢を強く維持する。 ・品種により本虫に対する抵抗性が異なるので、抵抗性品種を選んで栽培する。
アブラムシ類	生 育 期	・主なアブラムシ種として、クイガアブラムシ、クリオオアブラムシがある。 ・クリオオアブラムシには、ふ化直後に薬剤散布する。
	[耕種的防除]	・クリオオアブラムシの樹皮に付着した越冬卵は、見つけ次第すりつぶす。
ク リ イ ガ ア ブ ラ ム シ	6 月	・成虫の移動期に薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・主幹や主枝などに両面テープを巻いて、成虫の移動を阻止する。

病害虫名	防除時期	摘 要
モモノゴマ ダラノメイガ	8 月 上 旬 ～ 9 月 中 旬	・早生種は8月上旬～中旬、中生種は8月中旬～下旬、晩生種は8月下旬～9月上旬に重点を置き薬剤を散布する。
ネスジキノ カワガ	6 月 下 旬 ～ 7 月 上 旬	・第2世代成虫による被害がもつとも多いので、第2世代成虫の産卵最盛期(6月下旬～7月上旬)に薬剤を毬果に行き渡るように散布する。
ク リ シ ギ ゾ ウ ム シ	8月下旬～9月 中 旬	・成虫が羽化する時期に薬剤を散布する。
ク リ ミ ガ	9 月	・老熟幼虫で越冬し、8～9月の蛹期を経て、9月から成虫が羽化し産卵するため、9月下旬以降収穫の晩生品種で被害が多い。

クリ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）		
									実炭疽病	切り口及び傷口のゆ合促進	胴枯病
くり	ジマンタイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		収穫7日前まで	2回以内	200～700 ^{リットル} /10a	散布	600倍		
くり	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	1		【A】	3回以内		塗布			原液
					【B】					原液	
くり	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫3日前まで	4回以内	200～700 ^{リットル} /10a	散布	1000～1500倍		
くり	ベルケートフロアブル	イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	M7		収穫14日前まで	2回以内	200～700 ^{リットル} /10a	散布	1000倍		
くり	ベントレート水和剤	ベノミル水和剤	1		【C】	4回以内	200～700 ^{リットル} /10a	散布	2000～3000倍		

使用時期【A】：病患部削り取り直後
使用時期【B】：剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後
使用時期【C】：裂果前（但し、収穫14日前まで）

クリ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）									
									アブラムシ類	カミキリムシ類	クスサシ	クリイガ アブラムシ	クリシギゾウムシ	クリタマハチ	クリミカ	コウモリガ	ネジキ/カガ	モモ/コマダラノメイガ
くり	アクリロシン水和剤	シベルメトリン水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布					1000～3000倍	1000倍				
くり	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		【A】	5回以内	200～700g/10a	散布						1000～2000倍				
					収穫14日前まで						2000倍							
くり	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	収穫7日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	200～700g/10a	散布	1000倍									
くり	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	収穫14日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布				1000倍						1000倍
くり	ガットサイド S	MEP乳剤	1B		【B】	1回	-	【Z】							1(原液)～1.5倍			
							100～1000mL/樹	【Y】						2倍				
くり	スミチオン水和剤40	MEP水和剤	1B		【C】	4回以内	200～700g/10a	散布						1000倍				1000倍
くり	デリアナWDG	スピネトラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布										10000倍
くり	トクチオン乳剤	ブロチオス乳剤	1B		【D】	5回以内	200～700g/10a	散布									1000倍	1000倍
くり	トラサイド A乳剤	マラソン・MEP乳剤	1B		発芽直前	1回	200～700g/10a	散布						200倍				
					【C】	1回	0.5～2.0g/樹	樹幹部に十分散布		100～200倍								
くり	パーマチオン水和剤	フェンハレート・MEP水和剤	1B,3A	劇	【C】	4回以内	200～700g/10a	散布				1000倍	1000倍					
くり	バダソング水溶剤	カルタップ 水溶剤	14	劇	裂果前	3回以内	200～700g/10a	散布									1500倍	1500倍
くり	フェニックスフロアブル	フルベソングアミド水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	2～4g/10a	【X】				40倍						40倍
							200～700g/10a	散布				4000倍						
くり	マブリック水和剤20	フルバリネット水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	2回以内	2～4g/10a	【X】					40倍					
							200～700g/10a	散布				2000倍	2000倍	2000倍				
くり	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド 水溶剤	4A	劇	収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	4000倍					2000～4000倍				2000倍

使用時期：【A】羽化脱出期但し収穫14日前まで、【B】裂果前まで但し収穫90日前まで

【C】裂果前 但し収穫14日前まで、【D】裂果前まで(但し収穫7日前まで)

使用方法：【Z】樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布

【Y】樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に散布

【X】無人航空機による散布

(12) 休眠期防除

① 石灰硫黄合剤

(分類コード F:M02, I:UN*)

作物名	病虫害名	防 除 方 法			注 意 事 項
		使用時期	使用濃度	使用回数	
果 樹 類	サビダニ類 ハダニ類	冬 期	20～40倍	—	
落葉果樹	カイガラムシ類 ハダニ類 越冬病虫害	発 芽 前	7～10倍	—	
ウ メ	縮 葉 病	発 芽 前	8 倍	—	・薬害を防ぐため、12月は10倍液を用いる。 開花直前は20倍とし、早咲き花が咲き始めた時に散布する。
ナ シ	黒 星 病	発 芽 前	7 倍	—	・リン片がずれ始めた頃の散布効果が高い。
ミ カ ン	カイガラムシ類 ハダニ類	冬 期	20～40 倍	—	・防寒被覆除去7～10日後に散布する。
モ モ	縮 葉 病 胴 枯 病 黒 星 病	発 芽 前	7 倍	—	・生育期防除は効果が不十分なので、必ず休眠期に防除する。
ス モ モ	ふくろみ病	—	140 倍	—	・発病してからは手遅れなので、必ず休眠期に防除する。
リ ン ゴ	腐 ら ん 病	休 眠 期	10 倍	—	・腐らん病の休眠期防除は、枝幹が十分に濡れるように行う。
	黒 星 病	発 芽 前	7 倍	—	
	モニリア病	開 花 前	60～140 倍	—	
ク リ	芽 枯 病	発 芽 前	20～40 倍	—	
【すべての防除方法に関する注意事項】					
・ボルドー剤、銅剤、マシン油乳剤との混用は避ける。					
・ボルドー剤は散布後3週間以上、マシン油乳剤は散布後1ヶ月以上の間隔をあける。					
・銘柄(製造会社)によって登録内容が異なるので、商品ごとに登録内容を必ず確認する。					

② マシン油乳剤（95%濃度）

(分類コード F:NC, I:未)

作物名	病虫害名	防 除 方 法			注 意 事 項
		使用時期	使用濃度	使用回数	
落葉果樹	カイガラムシ類 (ブドウを除く)	—	12～14 倍	—	・ウメでは葉芽が動き出す前に散布する。 ただし、開花期間中は散布しない。
落葉果樹 (ナシ、リンゴ、カキ、モモ)	カイガラムシ サビダニ類 ハダニ類 及びその越冬卵	—	16～24 倍	—	・ナシ、カキは、原則として隔年散布とする。
モ モ	アブラムシ類	発 芽 前	25 倍	—	
カンキツ	ヤノネカイガラムシ その他カイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	冬 期	30～45 倍	—	・カンキツでは、葉に油浸斑を生じることがあるが、日数の経過に従って消失する。
【すべての防除方法に関する注意事項】					
・石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用は避ける。					
・銘柄(製造会社)によって登録内容が異なるので、商品ごとに登録内容を必ず確認する。					

2 果樹除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 散布実面積当たりの使用薬量を厳守し、薬液が栽培樹の枝葉にかからないように注意して散布する。
- ② 少量散布の場合は、専用ノズルを用い、雑草の葉面が軽く均一に濡れる程度に散布する。
- ③ 土壌の流亡や法面の崩壊のおそれがあるため、傾斜のある園地では使用しない。
- ④ 散布後の降雨で効果が低下することがあるので、天気予報を把握したうえで散布する。
- ⑤ 地力低下を防ぐため、除草剤使用は年間1～2回にとどめ、堆肥などを補給して土づくりに取り組む。

(2) 使用方法

- ・ザクサ液剤、バスタ液剤、プリグロックスL、ラウンドアップマックスロードにおいて、ウメ、ナシ、カキ、ブドウ、ミカン(カンキツ)、イチジク、キウイフルーツ、モモ、スモモ、リンゴ、クリで登録がある。
- ・使用基準等については、各薬剤のラベル等を十分に確認する。

(3) イチジクの除草対策

- ・イチジクは水平方向に根が広く分布する浅根性の樹種であるため、除草剤の使用は極力避けて手取り除草を行う。
- ・反射シートの敷設は、雑草抑制に加えてアザミウマ類の被害防止対策に効果がある。

3 果樹植物成長調整剤

樹 種	薬 剤 名	【対象品種等】 使用目的	使 用 方 法				注 意 事 項
			希釈倍数	使用時期	使用方法	回 数	
ナ シ	ジベレリンペースト	【日本なし】 ・果実肥大促進 ・熟期促進	(原液)	満開30～ 40日後	幼果1果当たり 20～30mgを 果梗部へ塗布	1回	・薬剤が果面に付着すると薬害が出るので、果実に付着しないように注意して塗布する。 ・定植後の新梢伸長促進では、全花除去した短果枝の新梢基部に塗布する。 ・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は2回以内(果梗部塗布は1回以内、新梢基部塗布は1回以内)。
		【日本なし】 ・新梢伸長促進	(原液)	満開予定日 10日前～ 満開40日後	1枝当たり 100mgを新梢 基部へ塗布	1回	
		【日本なし】 (苗木) ・新梢伸長促進		萌芽期～新 梢新長期	頂芽基部塗 布または新梢 基部塗布	3回 以内	
	ストップール液剤	【赤なし】 (ただし、王秋を除く) ・収穫前落果防止	2,000～ 3,000倍	収穫開始 予定日の 14～7日前	立木全面散布 200～300 g/10a	1回	・樹勢の弱い樹では、早期落葉する恐れがあるので、樹勢を考慮して使用する。 ・展着剤は、加用しない。 ・散布後に降雨があっても、再散布はしない。 ・ジクロルプロップを含む農薬の使用回数は1回。
		【青なし】 ・収穫前落果防止	1,500～ 2,000倍				
		【王秋】 ・収穫前落果防止	2,000～ 3,000倍	収穫開始 予定日の 30～7日前			
ブドウ	アグレプト液剤 (ストレプトマイシン液剤) [RAC F:25]	・無種子化	1,000倍 (200ppm)	満開予定日 の14日前 ～開花始期	散布 200～700g/10a 花房散布 30～100g/10a 花房浸漬	1回	・本剤は殺菌剤である。 ・展着剤は、加用しない。 ・ストレプトマイシンを含む農薬の使用回数は1回。
				満開予定日 の14日前 ～満開期	花房浸漬 (第1回目 ジベレリン 処理と併用)		
温州 ミカン	フィガロン乳剤	・間引摘果	1,000～ 2,000倍	満開20～ 50日後で 生理落果 のある時	立木全面散布 葉先からした たりはじめる程 度は250～500 g/10a	1回	・目的以外の植物に対してもごく微量で影響があるので、周辺の植物にはかからないようにする。 ・気象や生育の条件によって反応が大きく異なるので、使用に当たっては薬剤に添付された効果・薬害等の注意事項を熟読して理解し、適切に使用する。 ・エチクロゼートを含む農薬の使用回数は4回以内(1,000倍希釈散布は2回以内)。

樹 種	薬 剤 名	【対象品種等】 使用目的	使 用 方 法				注 意 事 項
			希釈倍数	使用時期	使用方法	回 数	
キウイ フルーツ	フルメット液剤	・果実肥大促進	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	開 花 後 20～30日	果実浸漬 又は 果実散布	1回	・処理時期が早い場合には、変形果の発生、生理落果の増加、過剰肥大に伴う糖度低下を生じるおそれがある。 ・果頂部に薬液がたまると変形果発生につながるので、処理後、棚の針金等をゆすり、過量の薬液を振り落とす。 ・ホルクロルフェニロンを含む農薬の使用回数は1回以内。
リンゴ	ストップール液剤	・収穫前落果防止	1,000～ 1,500倍	収 穫 開 始 予 定 日 の 25～7日前	立木全面散布 300～600 ℓ/10a	2回 以内	・効果を安定させるために2回散布する場合は、10日程度間隔をあける。 ・展着剤は、加用しない。 ・散布後に降雨があっても、再散布はしない。 ・ジクロルプロップを含む農薬の総使用回数は2回以内。

※これ以降のブドウに関する薬剤の登録内容は、本県の推進品種である「シャインマスカット」、「藤稔」、「ブラックビート」、「サニールージュ」、および「巨峰」、「デラウェア」についてのみ記載する。

ブドウ[無核栽培] ジベレリン粉末

- ・降雨やフェーン現象などによる異常乾燥の心配が無い日を選んで処理する。
- ・着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着果過多（過密着）による裂果発生の恐れがある。

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
サニールージュを除く巨峰系4倍体品種 ※「藤稔」、「ブラックビート」、「巨峰」が該当	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 12.5～ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
		ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロルフェニユロン 10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	・無種子化	ジベレリン 12.5～ 25ppm	満開時～ 満開3日後	花房浸漬 (満開10～15日後に ホルクロルフェニユロンによる 果粒肥大促進処理を行うこと)		
	・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
サニールージュ	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 12.5～ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
		ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロルフェニユロン 10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	・無種子化	ジベレリン 12.5～ 25ppm	満開時～ 満開3日後	花房浸漬 (満開10～15日後に ホルクロルフェニユロンによる 果粒肥大促進処理を行うこと)		
	・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
	・着粒密度低減 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 25ppm	第1回目： 満開予定日 14～20日前	第1回目： 花房浸漬 (ホルクロルフェニユ ロン3ppm液に加用)	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		

ブドウ[無核栽培] ジベレリン粉末 (続き)

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
2倍体欧州系品種 ※「シャインマスカット」が該当	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
		ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロルフェニロン 10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
デラウェア	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 100ppm	第1回目： 満開予定日 約14日前	第1回目： 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は2回。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内。
		第2回目： ジベレリン 75～ 100ppm	第2回目： 満開 約10日後	第2回目： 果房浸漬 又は 果房散布 30～100ℓ/10a		
		第1回目： ジベレリン 100ppm	第1回目： 満開予定日 18～14日 前	第1回目： 花房浸漬 (ホルクロルフェニロン1 ～5ppm液に加用)		
		第2回目： ジベレリン 75～ 100ppm	第2回目： 満開 約10日後	第2回目： 果房浸漬 又は 果房散布 30～100ℓ/10a		

ブドウ[有核栽培] ジベレリン粉末

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰	・果粒肥大促進	ジベレリン 25ppm	満開10～ 20日後	果房浸漬	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	・ジベレリンを含む農薬の使用回数は1回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内。

※品種や有核、無核など栽培方法によって登録内容が異なるため、製品に添付された取扱説明書の内容を必ず確認する。

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
サニールージュ を除く巨峰系4倍 体品種 ※「藤稔」、「ブ ラックビート」、 「巨峰」が該当	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～ 満開前 又は 満開時～ 満開3日後	開花始め～満開前に使用 する場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2回 目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用 する場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣 行)	1回 (但し、降 雨等により 再処理を 行う場合 は合計2 回以内)	・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～ 15日後	ジベレリンに加用するか又はホルクロルフェニロン単用で 処理 果房浸漬 (満開時～満開3日後のジベ レリンによる無種子化処理 は慣行)		
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬		
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～ 8枚時	花房散布		
サニールージュ	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～ 満開前 又は 満開時～ 満開3日後	開花始め～満開前に使用 する場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2 回目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用 する場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣 行)		
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～ 15日後	ジベレリンに加用するか又はホルクロルフェニロン単用で 処理 果房浸漬 (満開時～満開3日後のジベ レリンによる無種子化処理は 慣行)		
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬		
	・着粒密度低減 ・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3ppm	満開予定日 14～20日前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣 行)		
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～ 8枚時	花房散布		

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤(続き)

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
2倍体欧州系品種 ※「シャインマスカット」が該当	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用する場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 2～10ppm	満開10～15日後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		
		ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～15日後	果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～5日後(落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬		
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		
デラウェア (施設栽培)	・ジベレリン処理 適期幅拡大	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	満開予定日 18～14日前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)		・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は2回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	開花始め～満開時	花房浸漬		
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3～5ppm	満開 約10日後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		
		ホルクロルフェニロン 3～10ppm		ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		
デラウェア (露地栽培)	・ジベレリン処理 適期幅拡大	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	満開予定日 18～14日前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)		
	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開時	花房浸漬		
		ホルクロルフェニロン 5ppm		花房散布		
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3～5ppm	満開 約10日後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		
		ホルクロルフェニロン 3～10ppm		ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		

※品種や有核、無核など栽培方法によって登録内容が異なるため、製品に添付された取扱説明書の内容を必ず確認する。

ブドウ[有核栽培] フルメット液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
巨峰系4倍体品種 ※「藤稔」、「ブラックビート」、「サニールージュ」「巨峰」が該当	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニuron 5～10ppm	満開15～20日後	果房浸漬	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	・ホルクロルフェニuronを含む農薬の総使用回数は1回。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。

ブドウ フラスター液剤

品 種	使用目的	使用方法				注 意 事 項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰系4倍体品 種[巨峰・ピオー ネを除く] ※「藤稔」、「ブ ラックビート」、 「サニールー ジュ」が該当	・着粒増加 ・新梢伸長抑制	500～ 800倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散布 100～150 ℓ/10a	2回 以内	・重複散布にならないよ うに注意する。 ・他の農薬との混用は避 け、単用で使用する。 ・多品種の混植園やブド ウ園同士が近接してい る場合、登録のない品 種に薬液がかからない ように注意する。
巨峰(露地栽培)		1,000倍		散布 300ℓ/10a		
巨峰(露地栽培) 巨峰(施設栽培)		500～ 800倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散布 100～150 ℓ/10a	2回 以内	
シャインマスカット	・新梢伸長抑制	500倍	満 開 1 0 ～ 2 0 日 後 但し、収 穫 60日前まで	散布 150ℓ/10a		
		1,000倍		散布 300ℓ/10a		
		・着粒増加	1,000～ 2,000倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散布 100～150 ℓ/10a	
デラウエア (施設栽培) (露地栽培)	・新梢伸長抑制	800～ 1,000倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散布 100～150 ℓ/10a	1 回	
デラウエア (露地栽培)		1,500～ 2,000倍		散布 200～250 ℓ/10a		